

第5回 横須賀市都市計画マスタープラン検討会議 資 料

地区別のまちづくり方針

◆12 地区の区域図



1. 追浜地区
2. 田浦地区
3. 逸見地区
4. 本庁地区

5. 衣笠地区-----3
6. 大津地区-----11
7. 浦賀地区-----19
8. 久里浜地区-----27
9. 北下浦地区-----35
10. 大楠地区-----43
11. 武山地区-----51
12. 長井地区-----59

※今回の検討地区

平成 27 年 6 月 25 日
横須賀市都市部都市計画課

5：衣笠地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆衣笠地区の位置



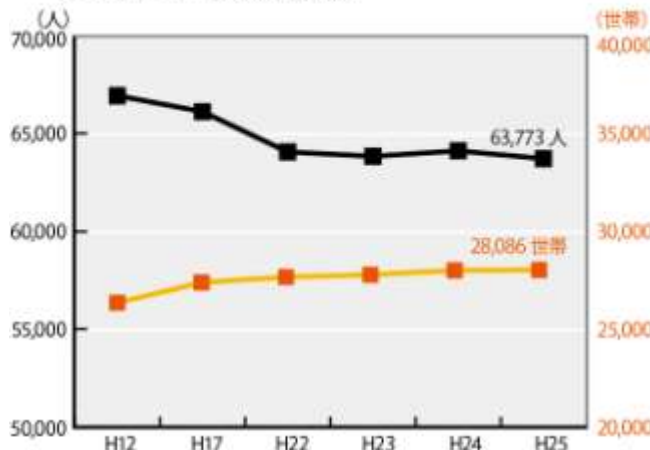
【地区の特徴】

- ・ 三浦半島の中央に位置し、大楠山につながる丘陵地が地区の多くを占め、平坦地は平作川沿いの一部である。衣笠駅周辺に商業地が形成され、丘陵地では住宅団地の開発が進められてきた。
- ・ 本庁地区に次いで人口が多い地区であり、高齢化率は概ね全市平均と同様である。

【まちづくりの魅力資源】

- 歴史：三浦一族の歴史、衣笠城跡、寺院など
- 自然：衣笠山公園、しょうぶ園、温泉など
- まち：アーケード商店街、ふるさと衣笠祭り、衣笠ICなど

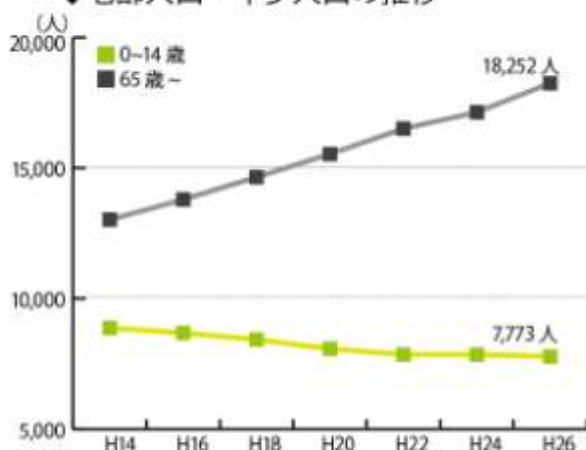
◆人口・世帯数の推移



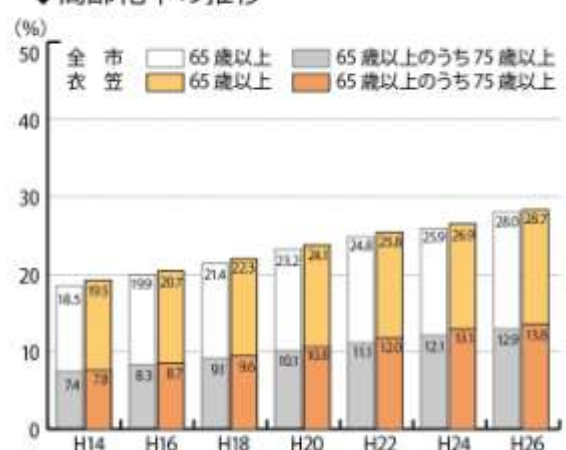
◆人口移動の推移



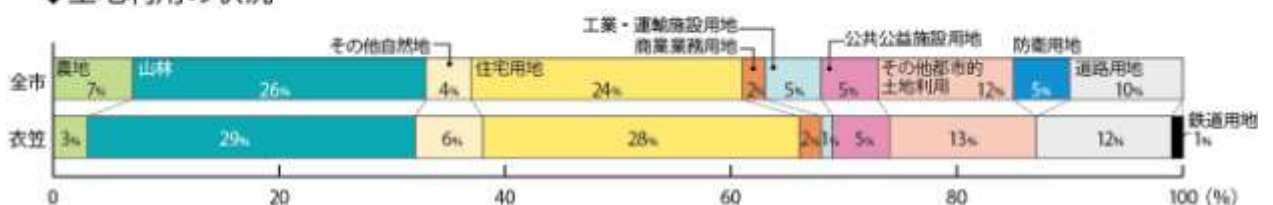
◆高齢人口・年少人口の推移



◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





（２）まちづくりの目標

- 衣笠山公園、衣笠城跡から大楠山に連なる樹林地と三浦一族の歴史を生かし、衣笠駅周辺の商店街の集積を高めた便利な利便性の高いまちづくりをめざしていきます。

「みどりと歴史を活かし新たな生活文化をはぐくむまちづくり」

（３）土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 衣笠山公園、衣笠城跡から大楠山に連なる一団の樹林地は、都市のみどりの骨格を形成する緑地ゾーンとします。
- ・ 衣笠駅周辺地区は、多様な都市機能の集積を図る拠点市街地とします。
- ・ 丘陵上部に開発された住宅団地は、低密度の住宅地とします。

【住宅地】

- ・ 公郷、森崎、大矢部等の丘陵上部の住宅団地や市街地外縁部の区域は、低密度の低中層住宅地とします。（良好な住環境の保全、ライフスタイルに合わせて住み替えられる多様な住宅の供給など）①
- ・ 池上から平作、小矢部に至る谷戸地域は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とし、環境との調和や市街地の改善を図ります。谷戸地域の持つ環境や地域コミュニティの良さを生かして多様な居住の場としていく地区や、長期的には他の地区へ住み替えなどにより縮退を図る地区など、谷戸の特性に応じた誘導を推進します。（みどりの豊かな住宅地形成、谷戸地域の利便性向上や防災性向上に貢献する開発の誘導、基盤未整備地区での段階的な縮退など）②
- ・ 衣笠駅南地区は、低密度の低層住宅地としての環境整備を誘導します。（地区計画など）③
- ・ 住宅団地のセンター地区は、日常生活の利便性に貢献するサービス機能の維持・向上を図ります。

【商業業務地】

- ・ 衣笠駅周辺地区は、地区の拠点市街地として、商業、業務、医療、福祉、文化、交流、居住等の多様な都市機能の集積を図る拠点商業業務地とします。（共同建替え、計画的な高度利用、都市機能の集積、便利で魅力ある都市空間の形成、都市型住宅の誘導など）④
- ・ 横須賀葉山線、横須賀三崎線、久里浜田浦線、根岸東逸見線の沿道地区は、日常生活の利便に資する商業機能や居住機能が共存する複合市街地とします。（生活利便施設や都市型住宅の立地誘導、賑わいのある商店街づくりなど）⑤

【産業地等】

- ・ 森崎1丁目、大矢部2丁目の久里浜工業団地に連なる区域は、都市型住宅・産業共存市街地とします。（都市型住宅と産業機能の共存、必要に応じた地区計画など）⑥
- ・ Y-HEART地区は、広域交通の利便性を活かした工業研究業務機能、健康スポーツ機能や、居住、文化、レクリエーション等の機能の導入を図ります。⑦

【緑地等】

- 横浜横須賀道路沿い、衣笠山公園周辺等の一団の樹林地は、都市のみどりの骨格を形成する地区として、自然環境の保全と自然に親しむ交流の場とします。⑧
- しょうぶ園は市民の交流の場として利便性の向上を図ります。⑨
- 中央公園墓地は、公園・緑地としての環境を維持します。⑩
- 阿部倉内の畑地は都市住民の潤いのある生活に貢献するみどりの空間として保全と活用を図ります。

（４）交通網整備の方針

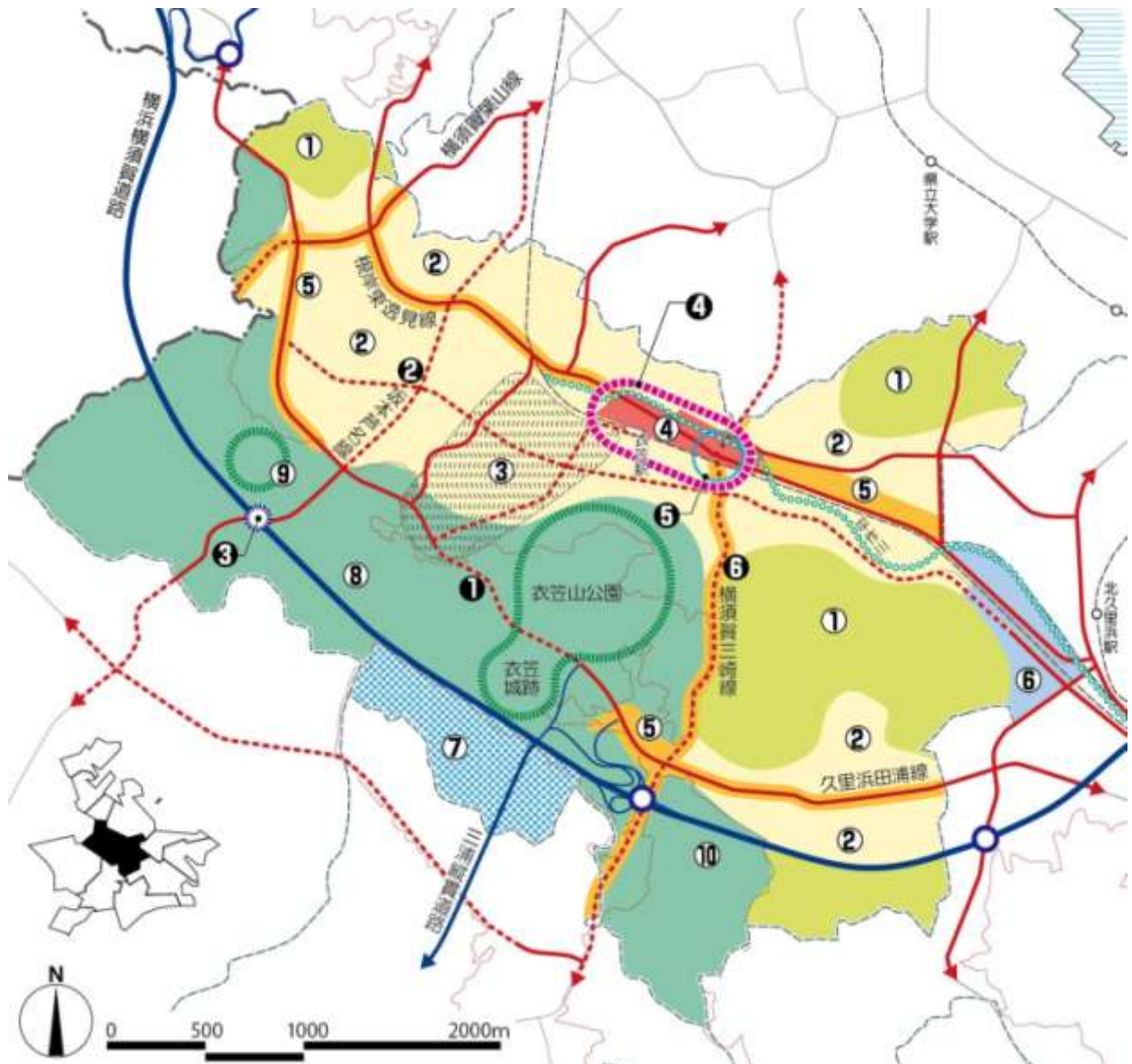
【交通網の骨格形成】

- 横浜横須賀道路の衣笠 I C と新規スマートインターチェンジにより、広域とのネットワークを形成します。
- 久里浜田浦線、根岸東逸見線、横須賀三崎線、坂本芦名線により、都市内でのネットワークを形成します。
- 衣笠駅を拠点とした公共交通のネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- 久里浜田浦線の整備を進めます。（衣笠十字路や池上十字路の円滑な通行の実現）①
- 坂本芦名線の整備を進めます。（西地域と東地域、インターチェンジとの連絡の強化）②
- 横浜横須賀道路に、坂本芦名線と連絡する新規スマートインターチェンジを開設します。また、開設に合わせて、広域交通の利便性を生かした商業業務サービス機能の導入を図ります。③
- 衣笠駅前の交通結節点機能を強化し、ユニバーサルデザインに配慮した環境整備を進めます。（歩行者空間の充実、駐車場・駐輪場の整備、駅施設利用の利便性の向上など）④
- 衣笠十字路交差点など主要交差点での交通の整序を進めます。（交差点改良、拡幅整備、歩行者環境の整備など）⑤
- 横須賀中央駅方面と連絡するバス交通の主要道路である横須賀三崎線のバス停留所部分の拡幅整備を検討します。（バス停留所整備による円滑な交通の確保と円滑な通行の実現）⑥
- 谷戸地域の生活利便性の向上や防災性の向上に貢献する道路網の整備を開発に合わせて誘導していきます。

◆衣笠地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

○鎌倉幕府の礎を築いた三浦一族の歴史を伝える

- ・ 衣笠城跡、衣笠山公園や、三浦一族ゆかりの寺院を巡る散策路などの環境整備を進めます。
- ・ 逸見地区から阿部倉、大楠山へのハイキングコースの環境整備を進めます。

【魅力拠点のネットワーク】

- ・ 田浦地区や逸見地区から阿部倉を経て大楠山に至るハイキングルートや、衣笠山公園～衣笠城跡～大楠山に至るハイキングコースの環境整備を進めます。
- ・ 三浦一族の歴史をたどる散策路や、衣笠駅前から谷戸に囲まれた寺院やしょうぶ園などを巡る散策路の環境整備を進めます。



【賑わい拠点の形成】

- ・ 衣笠駅前からのアーケード商店街は、利便性の高い商業地・多彩な楽しみのできる商業地・観光や交流の拠点としての商業地づくりを進めます。
- ・ 衣笠山公園は、桜の植林により、今後とも桜の名所としていきます。
- ・ 地元のまちづくり活動と連携して、地区の個性を生かした魅力づくりを進めます。



【産業拠点の強化】

- ・ 新規スマートインターチェンジを開設する地区の沿道では、広域交通の利便性を生かした商業・業務機能だけでなく、魅力拠点のネットワークを生かした交流機能や、Y - HEART地区と連携した健康機能など、新たな魅力をつくりだす土地利用を誘導していきます。
- ・ Y - HEART地区は、みどりに囲まれた環境の中で健康スポーツの拠点として交流機能の導入を図ります。

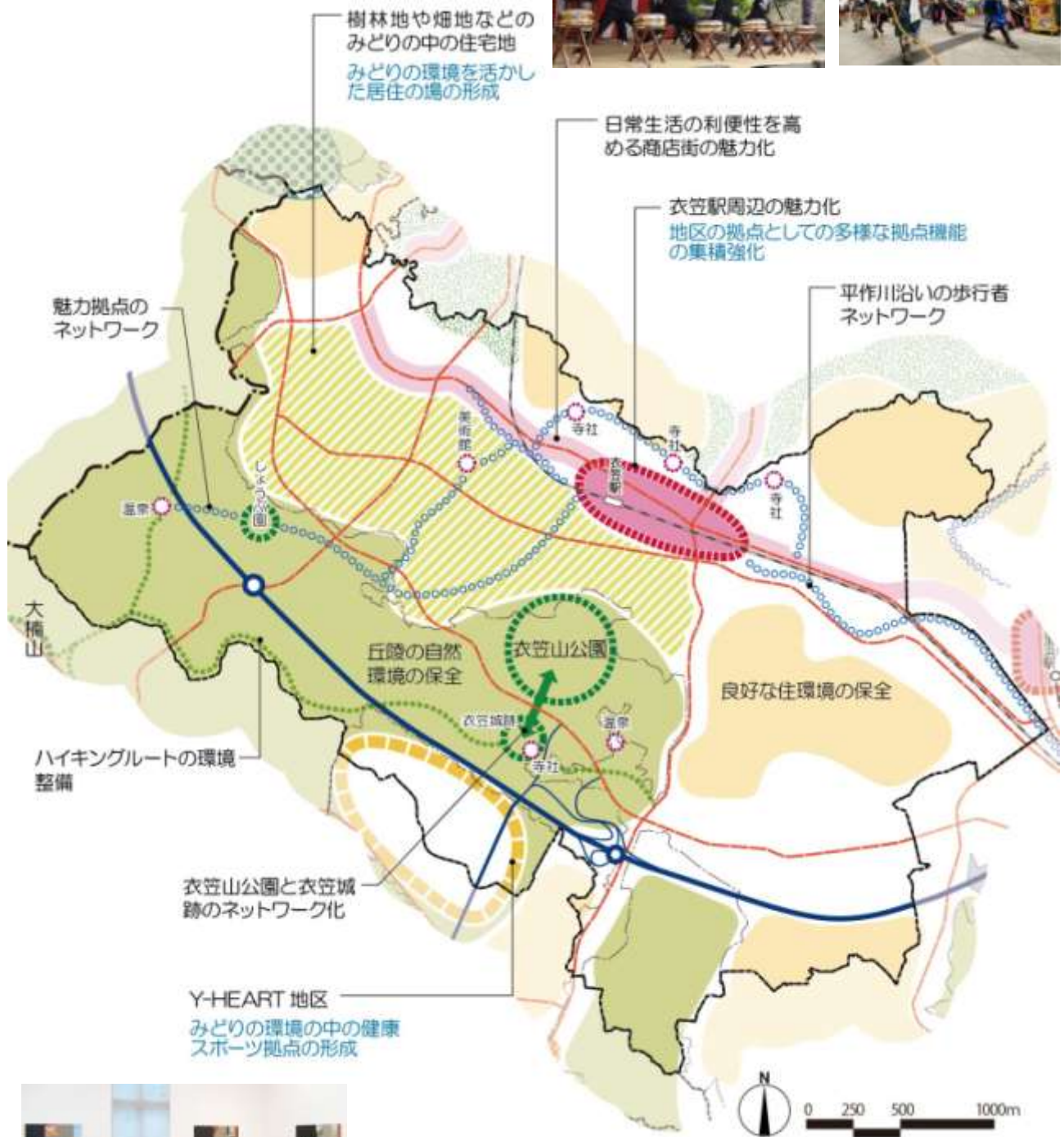


【景観形成等】

- ・ 衣笠駅周辺では、地区の特性を活かし、拠点市街地に相応しい賑わいと魅力のある都市景観の形成を図ります。
- ・ 谷戸地域では、市民や土地所有者の協力を得て、斜面緑地の特徴ある景観を保全していきます。
- ・ 平作川沿いは、水辺に親しむ空間づくりに向けた環境整備を地元のまちづくり活動団体などと連携して進めます。



◆衣笠地区の魅力創造



6：大津地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆大津地区の位置



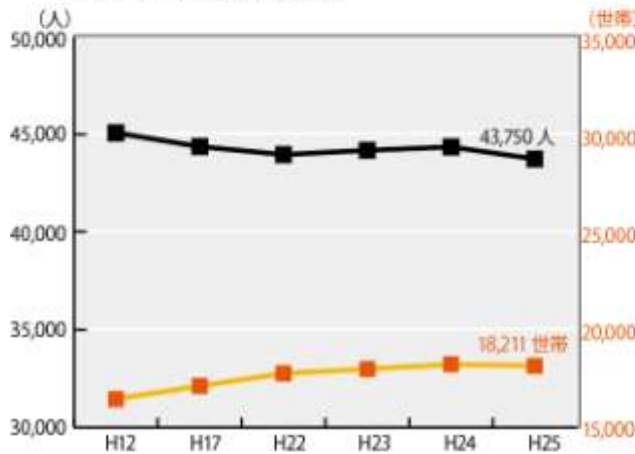
【地区の特徴】

- ・ 古代の歴史を伝える走水神社や丘陵地の古墳、幕末から開国にまつわる歴史などが残されている地区です。
- ・ 昭和 40 年代以降、海岸部での埋め立てや丘陵地での開発により、新しい住宅地が形成されてきましたが、うらが道などの旧街道沿いや斜面地などでは古くからまちが形成されています。

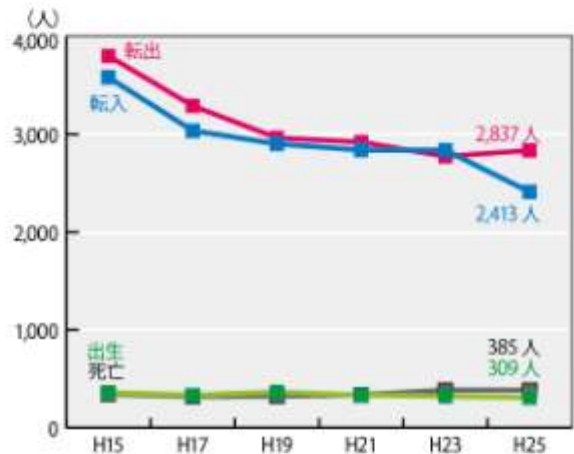
【まちづくりの魅力資源】

- 歴史：走水神社、古墳、寺院、うらが道など
- 自然：走水海水浴場、東京湾の眺望、馬堀自然教育園、観音崎公園に連なるみどりなど
- まち：うみかぜの路、走水ボードウォークなど

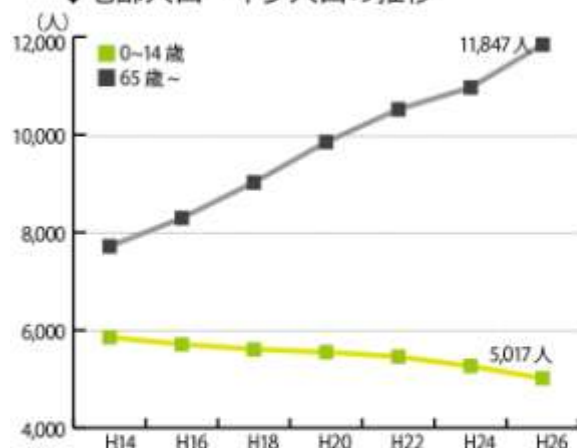
◆人口・世帯数の推移



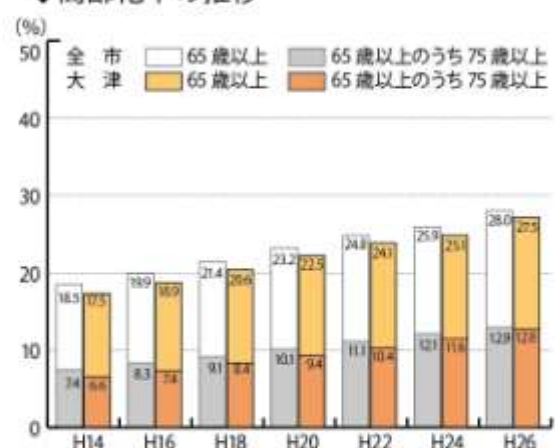
◆人口移動の推移



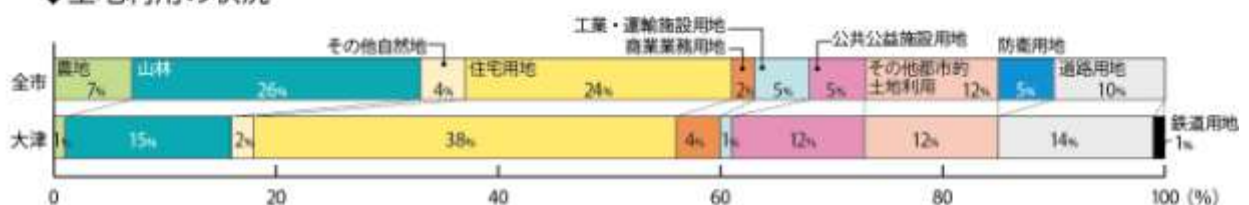
◆高齢人口・年少人口の推移

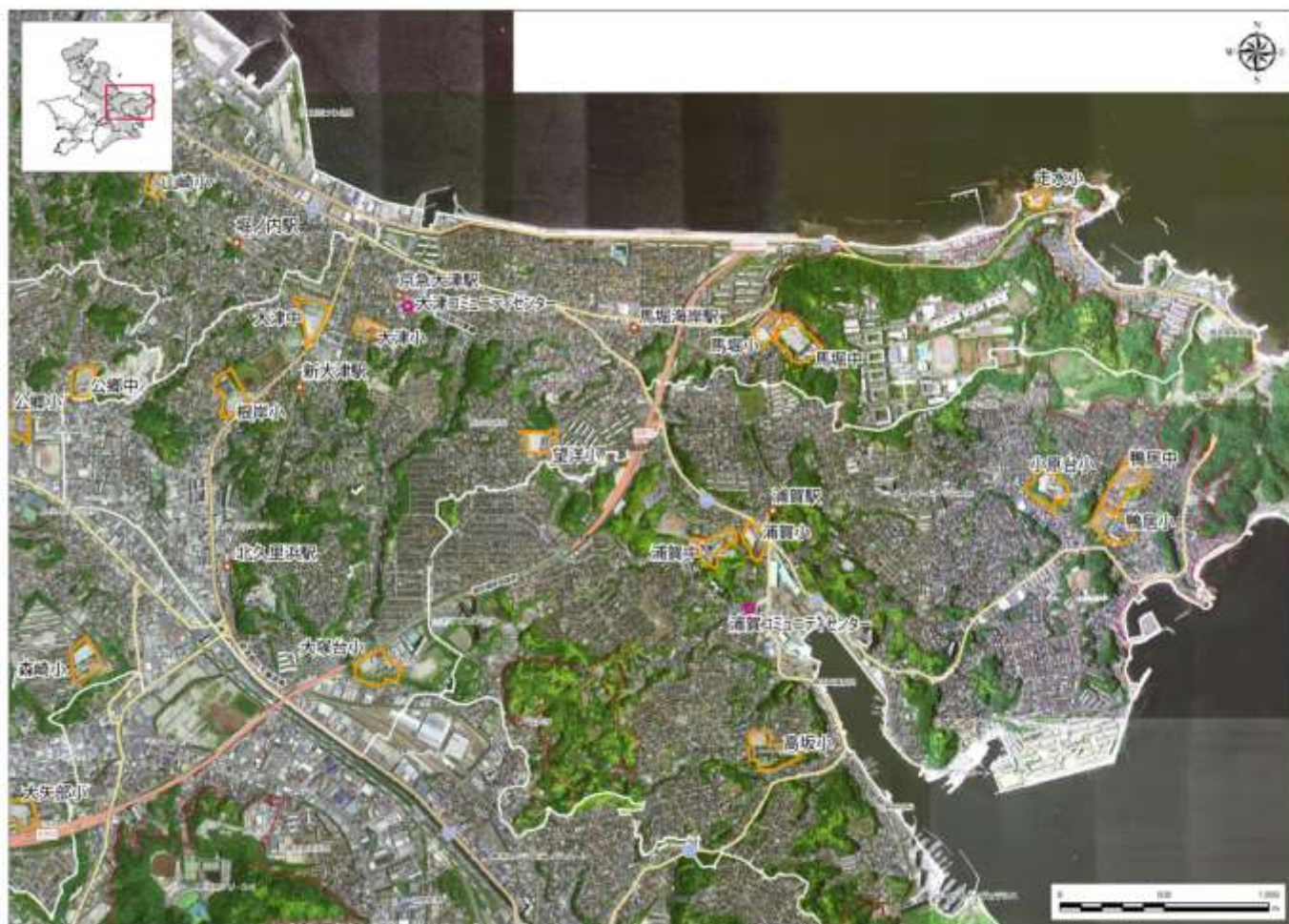


◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





（２）まちづくりの目標

- 海を間近に感じられる住環境や丘陵のみどりに囲まれた住環境を生かし、広域交通に便利にネットワークする立地を生かしたまちづくりをめざします。

「良好な住環境を保全・形成しつつ広域交通の要となるまちづくり」

（３）土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 走水周辺の自然海岸と周辺の樹林地は、観音崎公園に連なるみどりのゾーンとします。
- ・ 北久里浜駅周辺は、多様な都市機能の集積を図る拠点市街地とします。
- ・ 海岸部や丘陵上部で開発された住宅団地は、低密度の住宅地とします。

【住宅地】

- ・ 馬堀海岸や池田町、桜が丘などの住宅団地は、低密度の低層住宅地とします。（良好な住環境の保全など）①
- ・ 大津町5丁目から馬堀町に至る京急沿線の谷戸地域は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とし、環境との調和や市街地の改善を図ります。谷戸地域の持つ環境や地域コミュニティの良さを生かして多様な居住の場としていく地区や、長期的には他の地区へ住み替えなどにより縮退を図る地区など、谷戸の特性に応じた誘導を推進します。（みどりの豊かな住宅地形成、谷戸地域の利便性向上や防災性向上に貢献する開発の誘導、基盤未整備地区での段階的な縮退など）②
- ・ 大津町などの京急線北側の住宅地は、中密度の低中層住宅を中心とした住宅地とします。（共同建替え、不燃化・難燃化、開発に合わせた生活道路の改善など）③
- ・ 住宅団地のセンター地区は、日常生活の利便性に貢献するサービス機能の維持・向上を図ります。

【商業業務地】

- ・ 北久里浜駅周辺地区は、地区の拠点市街地として、商業、業務、医療、福祉、文化、交流、居住等の多様な都市機能の集積を図る拠点商業業務地とします。（計画的な高度利用、便利で魅力ある都市空間の形成、都市型住宅の立地誘導など）④
- ・ 国道134号沿道地区などは、日常生活の利便に資する商業業務機能や居住機能が共存する複合市街地とします。（生活利便施設や都市型住宅の立地誘導、賑わいのある商店街づくりなど）⑤
- ・ 京急大津駅周辺、馬堀海岸駅周辺、新大津駅周辺は、地区の生活拠点として生活利便施設の立地を誘導します。⑥

【産業地等】

- ・ 根岸町3丁目などの工業地は、周辺の住宅、商業などと調和したまちづくりを目指します。⑦
- ・ 大津漁港や走水漁港の周辺は、漁業・海産物の加工販売などの場としていきます。⑧

【緑地等】

- 走水周辺の自然海岸と周辺の樹林地は、観音崎の緑地と調和する市街地の身近なみどりの環境として保全していきます。⑨
- 大津公園は、運動公園としての機能を維持するとともに、地区の交流の場としての活用を図ります。⑩

（４）交通網整備の方針

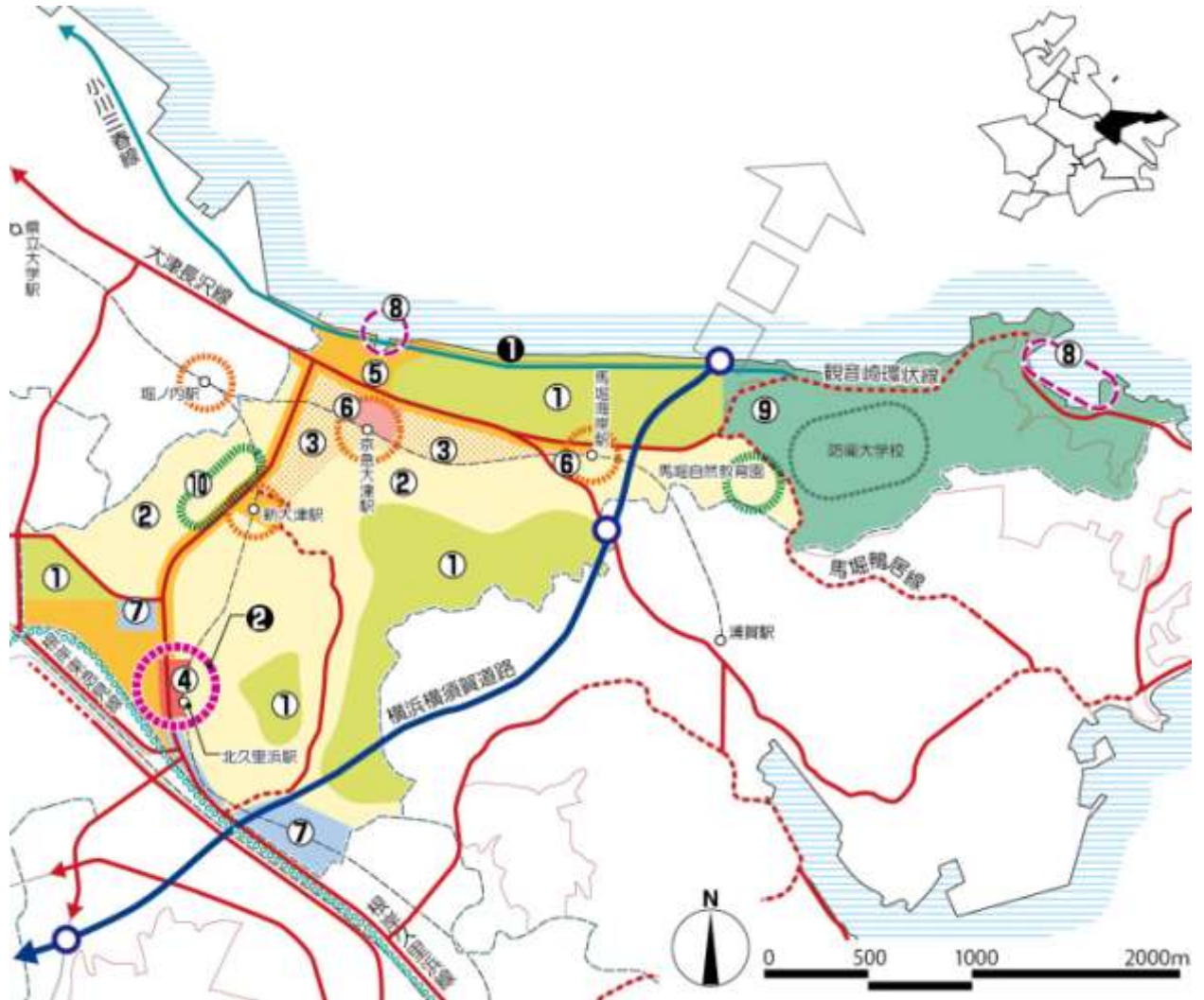
【交通網の骨格形成】

- 横浜横須賀道路の馬堀ＩＣと浦賀ＩＣにより、広域とのネットワークを形成します。
- 安浦下浦線、根岸久里浜線、大津長沢線により、都市内でのネットワークを形成します。
- 北久里浜駅を拠点として公共交通のネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- 馬堀海岸地区では親水護岸と合わせて、国道 16 号の緑陰道路プロジェクトにより整備した道路空間を適切に維持管理していきます。❶
- 北久里浜駅前地区の交通結節点機能を強化し、ユニバーサルデザインに配慮した環境整備を進めます。（歩行者空間の充実、駐車場・駐輪場の整備、駅施設利用の利便性の向上など）❷
- 谷戸地域の生活利便性の向上や防災性の向上に貢献する道路網の形成を、開発に合わせて進めます。

◆大津地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

○海が見える市街地をアピール

- ・ うみかぜの路を主軸として、様々な形で海とふれあう場を創りだします。
- ・ 丘の上の生活の場から海を眺望する場を創りだします。

【魅力拠点のネットワーク】

- ・ 馬堀海岸から走水漁港、観音崎に至るうみかぜの路により、漁港、住宅地、水源地、走水神社などをつなぎ浦賀地区の観音崎公園に至る、様々な海の魅力を感じる魅力拠点のネットワークの環境整備を進めます。
- ・ 地区の歴史を伝えるうらが道沿いにある寺院・遺跡等を巡る歴史の道のネットワークについて環境整備を進めます。



【賑わい拠点の形成】

- ・ 北久里浜駅周辺の商店街では、利便性の高い商業地・多彩な楽しみのできる商業地・観光や交流の拠点としての商業地づくりを進めます。



【住環境ストックの活用】

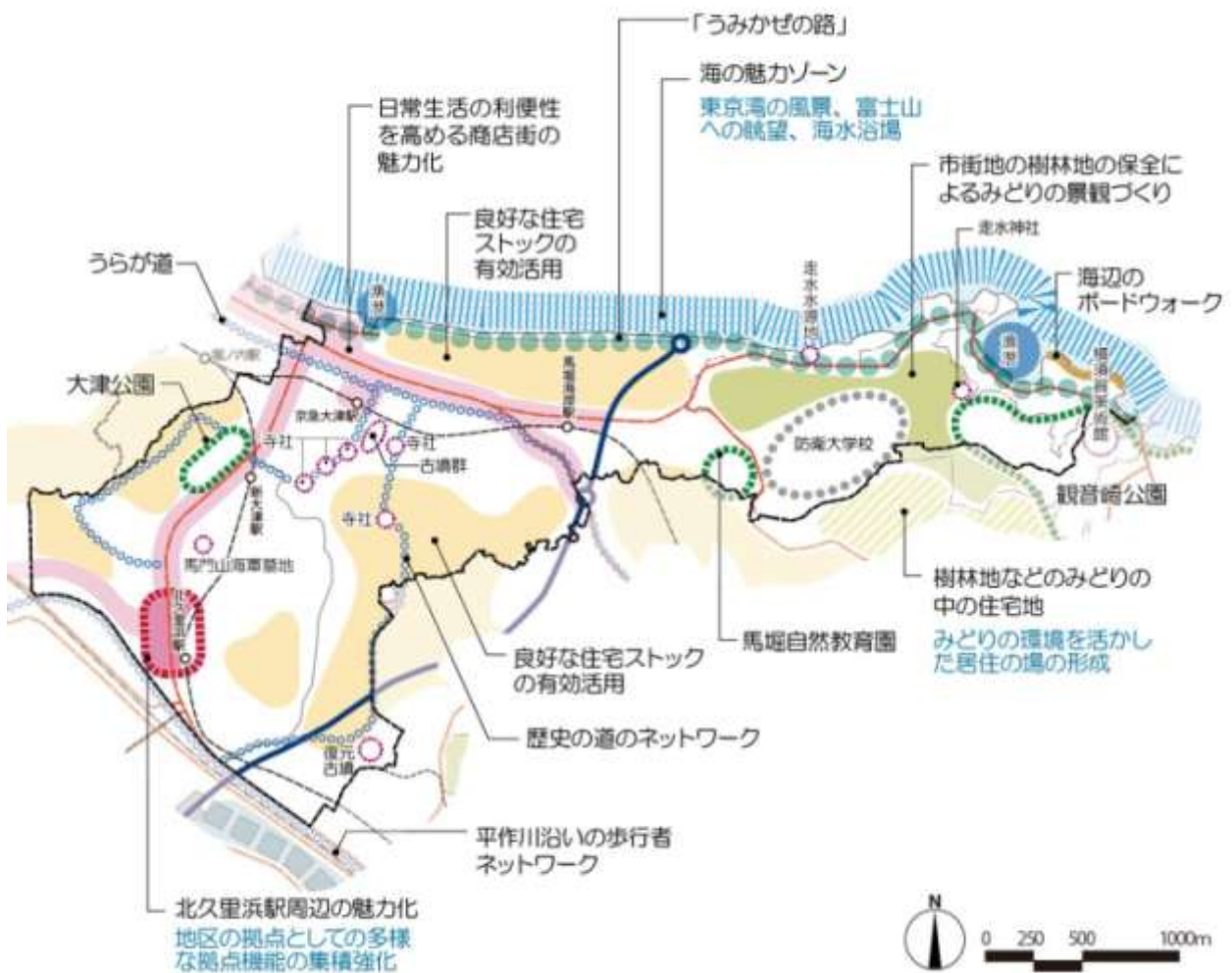
- ・ 馬堀海岸などの住宅団地では、良好に整備した住環境を生かして、住み替えなどによる世代ミックスを促進し空き家を有効活用した地区の活力づくりを進めます。

【景観形成等】

- ・ 北久里浜駅周辺では、地区の特性を活かし、拠点市街地に相応しい賑わいと魅力のある都市景観の形成を図ります。
- ・ 谷戸地域では、市民や土地所有者の協力を得て、斜面緑地の特徴ある景観を保全していきます。
- ・ 馬堀海岸では、本庁地区から連続する個性ある海辺景観と良好な街並み景観を維持します。（住宅地からの良好な眺望の確保、ウォーターフロントの特徴ある景観、賑わいのある交流の場づくり、うみかぜの路の保全など）



◆大津地区の魅力創造



7：浦賀地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆浦賀地区の位置



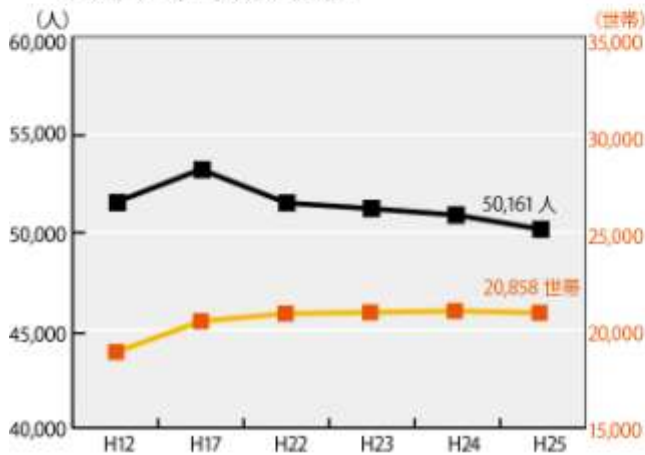
【地区の特徴】

- ・ 浦賀港は東京湾の湾口部に位置し、中世から海運の要衝として栄え、江戸時代に浦賀奉行所が置かれた。
- ・ 平坦地は少なく、丘陵が海に迫っている。かつての浦賀造船所は2003年に閉鎖され、跡地利用計画が検討されている。丘陵部では早くから住宅団地の開発が進み、現在は世帯の高齢化が進んでいる。

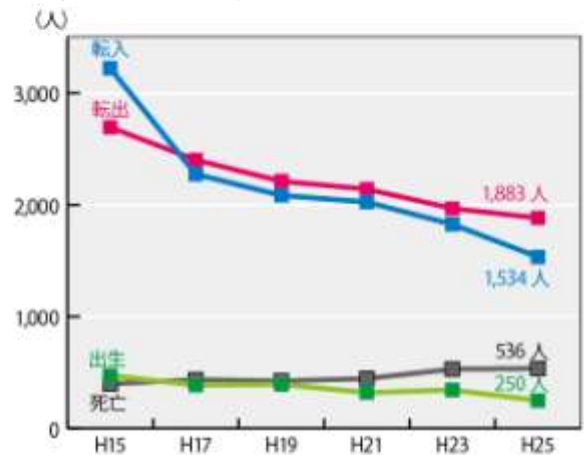
【まちづくりの魅力資源】

- 歴史：浦賀奉行所跡、東叶神社、西叶神社、千代ヶ崎砲台跡、燈明堂跡、観音崎灯台、うらが道など
- 自然：観音崎公園、愛宕山公園、御林など
- まち：浦賀ドック跡地、マリーナ、浦賀の渡しなど

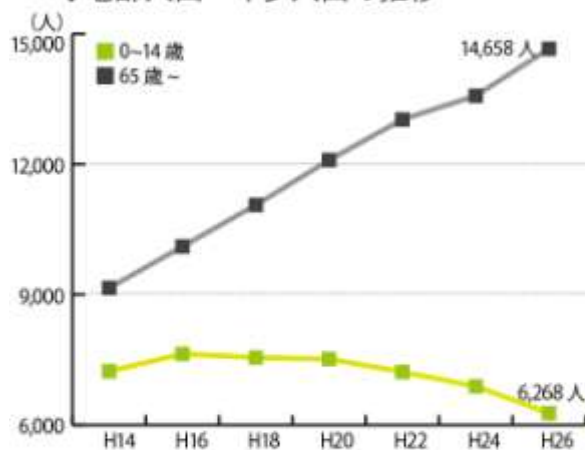
◆人口・世帯数の推移



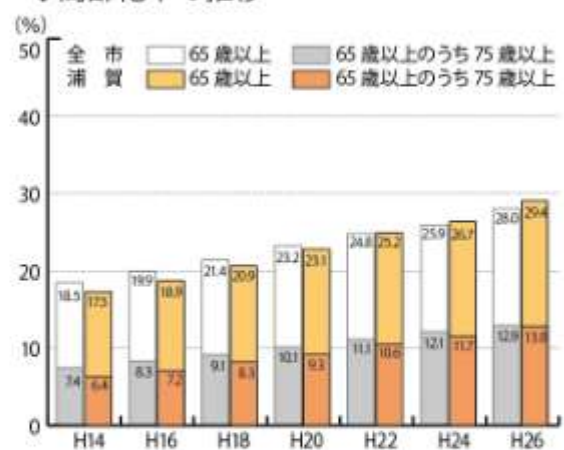
◆人口移動の推移



◆高齢人口・年少人口の推移



◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





（２）まちづくりの目標

- 海運の要衝としての歴史、我が国の開国から近代化を牽引した歴史が培った文化を生かして、次代につなげる文化を生み出していくまちづくりをめざします。

「地区の歴史と文化を生かして快適に安心して住み続けるためのまちづくり」

（３）土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 浦賀半島風致地区及び観音崎公園の樹林地や、西浦賀6丁目一帯及び吉井1丁目一帯の樹林地は都市の骨格を形成するみどりとします。
- ・ 浦賀駅周辺は、地区の拠点市街地として、多様な都市機能の集積を図ります。
- ・ 浦賀ドック跡地は、商業、業務、文化、交流等の機能を中心とする再整備を検討していきます。

【住宅地】

- ・ 浦賀丘、光風台、小原台などの住宅団地は、低密度の低層住宅地とします。（良好な住環境の保全）①
- ・ 浦上台、二葉、鴨居などの丘陵上部の住宅団地は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とします。（良好な住環境の保全、ライフスタイルに合わせて住み替えられる多様な住宅の供給など）②
- ・ 谷戸地域の市街地は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とし、環境との調和や市街地の改善を図ります。谷戸地域の持つ環境や地域コミュニティの良さを生かして多様な居住の場としていく地区や、長期的には他の地区へ住み替えなどにより縮退を図る地区など、谷戸の特性に応じた誘導を推進します。（みどりの豊かな住宅地形成、谷戸地域の利便性向上や防災性向上に貢献する開発の誘導、基盤未整備地区での段階的な縮退など）
- ・ 海岸部や中高層建築物の立地が進んだ住宅地は、中密度の中高層住宅を中心とした住宅地とします。（共同建て替えの推進、オープンスペースの充実など）③
- ・ 住宅団地のセンター地区は、日常生活の利便性に貢献するサービス機能の維持・向上を図ります。

【商業業務地】

- ・ 浦賀駅周辺地区は、地区の拠点市街地として、浦賀ドック跡地の再整備と連携しつつ、商業、業務、医療、福祉、文化、交流、居住等の多様な都市機能の集積を図る拠点商業業務地とします。（計画的な高度利用、都市機能の集中立地、便利で魅力ある都市空間の形成など）④
- ・ 西浦賀の海岸部や幹線道路等の沿道地区は、日常生活の利便に資する商業業務機能や居住機能の共存する複合市街地とします。（生活利便施設や都市型住宅の立地誘導、歩行者空間の拡充など）⑤
- ・ 西浦賀の浦賀湾口に面するマリーナ周辺は、居住とリゾート機能を中心にした土地利用を進めます。⑥

【工業地からの土地利用転換】

- ・ 浦賀港周辺の造船所跡地は、「浦賀港周辺地区再整備計画」に基づき、水辺プロムナードや（仮称）ミュージアム・パークを先導的に整備し、交流拠点としての機能を強化するとともに、地区の活性化につながる商業、業務、住宅等が計画的に集積する複合市街地に転換します。（駅周辺の商業地との景観的調和、特徴的な景観に親しめる開放的な空間づくり、観光のネットワーク化と歴史文化資源の活用と拡充など）⑦

【緑地等】

- ・ 観音崎周辺などの緑地ゾーンは、自然環境・景観を保全するとともに、自然、歴史、文化に親しむ交流活動の拠点として整備します。⑧
- ・ 吉井、西浦賀、長瀬周辺などの一団の緑地は市街地の身近なみどりとして保全していきます。⑨

（４）交通網の整備方針

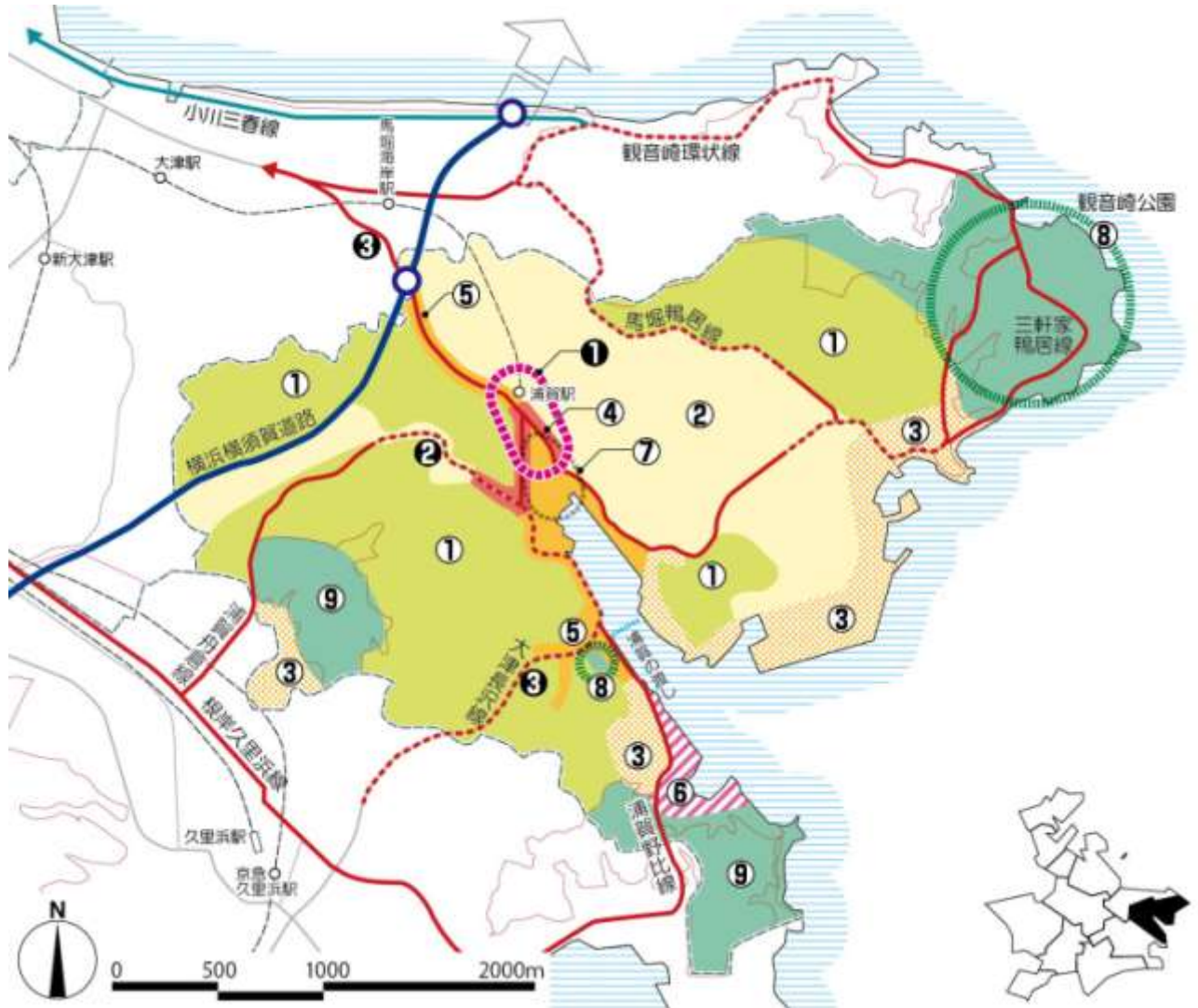
【交通網の骨格形成】

- ・ 大津長沢線から浦賀 I C を経て横浜横須賀道路により、広域とのネットワークを形成します。
- ・ 大津長沢線、浦賀野比線、観音崎環状線、馬堀鴨居線等により、都市内でのネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- ・ 「浦賀港周辺地区再整備計画」を進め、浦賀駅前の交通結節点機能を強化し、ユニバーサルデザインに配慮した環境整備を進めます。（歩行者空間の充実、駐車場・駐輪場の整備、駅施設利用の利便性の向上など）①
- ・ 浦賀舟倉線の整備により久里浜駅周辺、北久里浜駅周辺との連絡を強化していきます。②
- ・ 大津長沢線の整備により中心市街地、久里浜駅周辺との連絡を強化していきます。③
- ・ 谷戸地域での生活道路の整備改善を進め、防災性の向上を図ります。（建て替え時の壁面後退と狹隘道路整備など）

◆浦賀地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

○日本近代の発祥の地

- ・ 浦賀港を取り囲むようにして、歴史的な資源が多くあります。これらをネットワークさせて、「浦賀のまち」のイメージづくりを進めていきます。
- ・ 浦賀ドック跡地の再整備により、文化・交流の拠点づくりを進めていきます。

【魅力拠点のネットワーク】

- ・ 浦賀港を挟んで歴史的な資源が豊富にあり、現状でもハイキングに訪れる人は多く、わかりやすく快適な周遊ルート
の環境整備を進めていきます。

⇒浦賀駅～西叶神社～愛宕山～浦賀奉行所跡～燈明
堂跡～千代ヶ崎砲台跡～久里浜

⇒浦賀駅～浦賀の渡し～東叶神社～観音崎公園

⇒浦賀駅～浦賀の渡し～浦賀駅

⇒浦賀駅～西叶神社～愛宕山～浦賀奉行所跡～うら
が道～御林～久里浜



【賑わい拠点の形成】

- ・ 浦賀ドック跡地一帯の再整備により、新たな観光・交流機能の導入を検討していきます。



【住環境ストックの活用】

- ・ 二葉、鴨居などの住宅団地では、良好に整備した住環境を生かして、住み替えなどによる世代ミックスを促進し空き家を有効活用した地区の活力づくりを進めます。

【景観形成等】

- ・ 谷戸地域では、市民や土地所有者の協力を得て、斜面緑地の特徴ある景観を保全していきます。
- ・ 浦賀港周辺では、親水性の高い水辺空間や歴史や文化を感じることで個性ある景観の形成を進めます。（港の景観の活用、浦賀湾から眺望する緑地の特徴ある景観の保全、商業地の賑わいのある街並み、歴史的な環境・資源の活用、浦賀の渡し周辺の環境整備など）



◆浦賀地区の魅力創造



8：久里浜地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆久里浜地区の位置



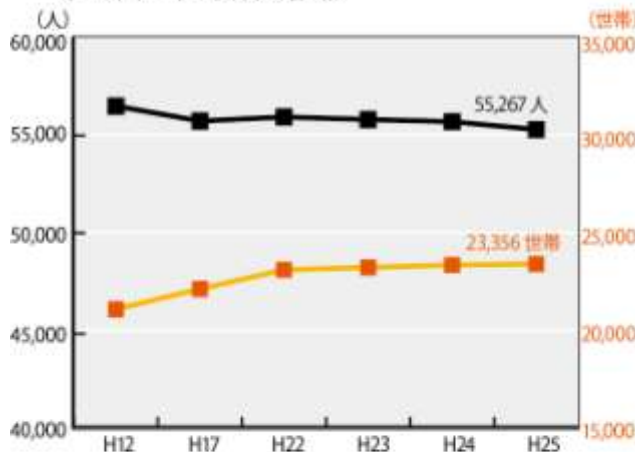
【地区の特徴】

- ・ 平作川沿いの平坦地とこれを囲む丘陵の地形であり、丘陵部では住宅開発が進んだが、一部にまとまった樹林地が残されている。京急久里浜駅周辺にはアーケード商店街と大型店舗が集積し、生活に便利な地区であり、近年も集合住宅開発が行われている。

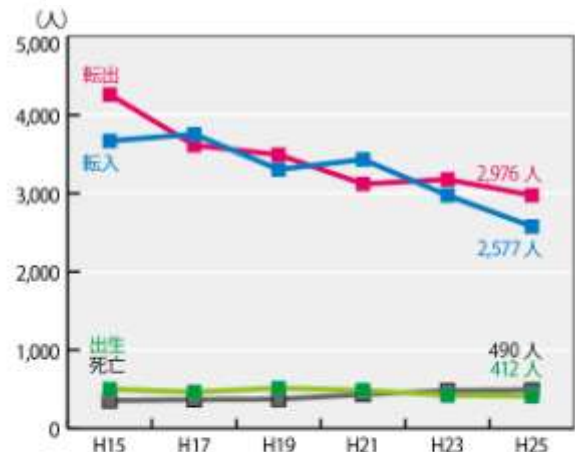
【まちづくりの魅力資源】

- 歴史：内川新田の開発、ペリー来航にかかわる歴史など
- 自然：くりはま花の国、久村一帯の樹林地など
- まち：アーケード商店街、フェリーターミナル、久里浜港など

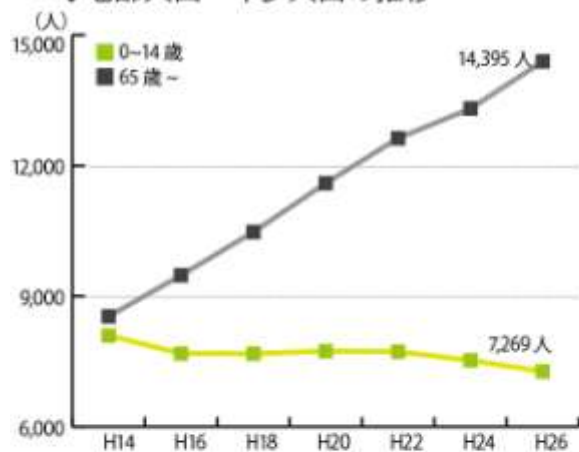
◆人口・世帯数の推移



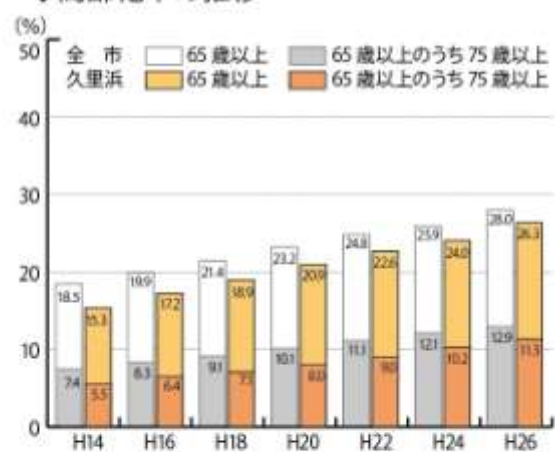
◆人口移動の推移



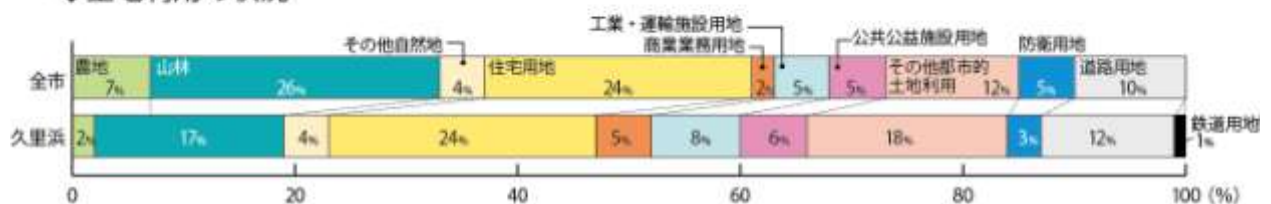
◆高齢人口・年少人口の推移



◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





（２）まちづくりの目標

- 中世、開国、旧海軍などの歴史が創る地区の文化を生かして、新たな産業や文化を生み出す活力のあるまちづくりをめざします。

「地区の歴史と活力を生かして職・住・遊の交流をはぐくむまちづくり」

（３）土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 佐原、久村の一団の丘陵地やくりはま花の国（久里浜緑地）は、都市のみどりの骨格を形成する緑地ゾーンとします。
- ・ 久里浜工業団地及び久里浜テクノパーク一帯は、産業拠点とします。
- ・ 久里浜駅周辺及び京急久里浜駅周辺は、多様な都市機能の集積を図る拠点市街地とします。

【住宅地】

- ・ 岩戸、ハイランド、若宮台、久里浜台などの丘陵上部の住宅団地は、低密度の低層住宅地とします。（良好な住環境の保全など）①
- ・ 谷戸地域の市街地は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とし、環境との調和や市街地の改善を図ります。谷戸地域の持つ環境や地域コミュニティの良さを生かして多様な居住の場としていく地区や、長期的には他の地区へ住み替えなどにより縮退を図る地区など、谷戸の特性に応じた誘導を推進します。（みどりの豊かな住宅地形成、谷戸地域の利便性向上や防災性向上に貢献する開発の誘導、基盤未整備地区での段階的な縮退など）
- ・ 海岸部の市街地、中高層建築物の立地が進む住宅地は、中密度の中高層住宅を中心とした住宅地とします。（共同建て替えの推進、オープンスペースの充実など）②
- ・ 住宅団地のセンター地区は、日常生活の利便性に貢献するサービス機能の維持・向上を図ります。

【商業業務地】

- ・ 久里浜駅周辺地区は、地区の拠点市街地として、商業、業務、医療、福祉、文化、交流、居住等の多様な都市機能の集積を図る拠点商業業務地とします。（市街地再開発、計画的な高度利用、都市機能の集積、便利で魅力ある都市空間の形成、都市型住宅の立地誘導、ＪＲと京急の２駅の連絡機能強化など）③
- ・ 久里浜駅周辺から久里浜港に至る平作川南側の区域は、日常生活の利便に資する商業業務機能や居住機能が共存する複合市街地とします。（生活利便施設や都市型住宅の立地誘導、高度利用とオープンスペースの充実など）④
- ・ 佐原交差点周辺や幹線道路沿道地区は、沿道サービス施設や都市型住宅等の集積する複合市街地とします。⑤

【産業地等】

- ・ 久里浜１丁目・舟倉の平作川沿い地区は、都市型住宅・産業共存市街地とします。（産業機能と都市型住宅の共存、沿道サービス施設の立地、職住近接の活力ある土地利用など）⑥

- 久里浜工業団地、久里浜テクノパーク地区等は、今後とも産業活動の拠点となる工業・研究業務地とします。（Y R P地区などの新たに整備された研究開発等産業機能との連携など）⑦
- 久里浜港周辺地区は、港湾機能と観光機能の強化を進めていきます。（物流機能の強化と再編、地産地消の推進など）⑧

【緑地等】

- くりはま花の国（久里浜緑地）は花を活かした広域的なレクリエーション拠点として、利便性の向上を図りながら、自然環境を保全していきます。⑨
- 佐原、久村、長瀬周辺の一団の丘陵地は、市街地の身近なみどりとして保全していきます。⑩
- 佐原交差点周辺の工場跡地に整備した公園は、防災性の高い新たな地区の交流拠点の活用を進めます。⑪
- 久里浜1丁目に整備した環境や生物多様性を支える公園は、自然教育の場としての活用の整備を進めます。⑫
- ペリー上陸の地である久里浜港の砂浜海岸線周辺は、ペリー公園や記念館と一体的に歴史と文化の感じられる環境整備、景観形成を図っていきます。（観光のネットワーク化と歴史文化資源の活用と拡充、眺望景観保全地区）⑬

（４）交通網整備の方針

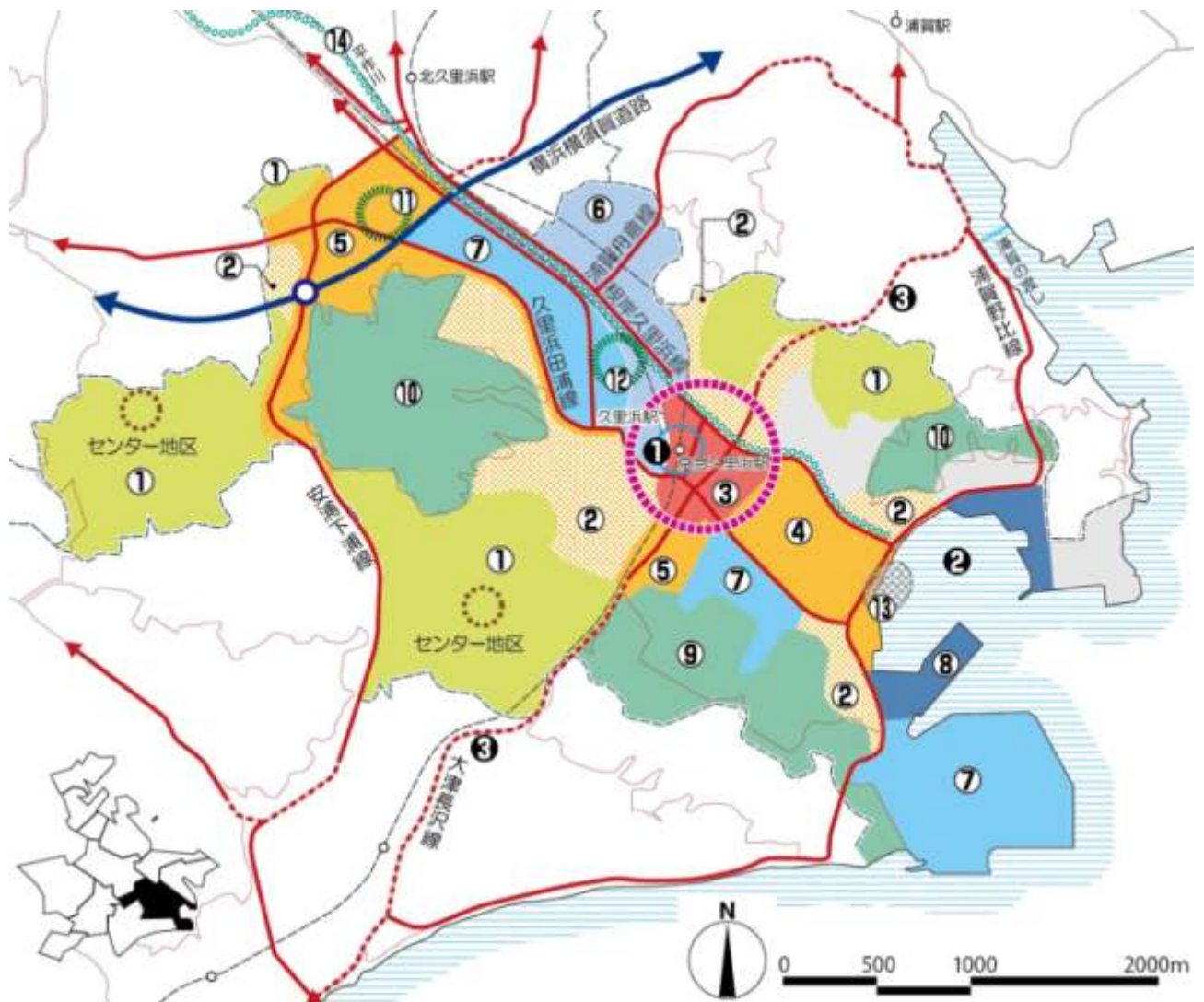
【交通網の骨格形成】

- 佐原 I C から横浜横須賀道路により、広域とのネットワークを形成します。
- 久里浜田浦線、根岸久里浜線、安浦下浦線、大津長沢線、浦賀野比線により、都市内でのネットワークを形成します。
- 久里浜駅周辺及び京急久里浜駅周辺を拠点として、公共交通のネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- 久里浜駅周辺の交通結節点機能を強化し、ユニバーサルデザインに配慮した環境整備を進めます。（J R と京急 2 駅の連絡機能の強化、歩行者空間の充実、駐車場・駐輪場の整備、駅施設利用の利便性の向上など）①
- 久里浜港の港湾施設の整備を推進していきます。②
- 大津長沢線の整備により、浦賀地区・北下浦地区との連絡を強化していきます。③
- 丘陵上部の住宅団地では、防災性の高い、便利な生活道路網を形成していきます。（既存の道路の適正なネットワーク形成など）
- 谷戸地域での生活道路の改善を進め、防災性の向上を図ります。（建て替え時の壁面後退と狭あい道路整備など）
- 京急久里浜線の複線化を促進します。

◆久里浜地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

○港湾機能を生かした交流・産業拠点強化

- ・ 久里浜港～久里浜テクノパーク・久里浜工業団地～佐原ＩＣ～横浜横須賀道路という物流・産業のネットワークを生かして、活力ある産業を育成していきます。
- ・ フェリーによる連絡を生かして、久里浜港周辺地区から京急久里浜駅周辺地区までにおける観光交流機能の強化を図ります。

【魅力拠点のネットワーク】

- ・ 京急久里浜駅周辺地区、くりはま花の国ゾーン、久里浜港周辺地区の３つの拠点のネットワークを形成していきます。
（回遊路、催し物など）



【賑わい拠点の形成】

- ・ 久里浜港周辺地区についてフェリー発着だけでなく、浦賀地区と連携した開国の歴史の活用や、千葉県と連携した宿泊・コンベンション機能の導入など、交流拠点としての機能強化を図ります。



【住環境ストックの活用】

- ・ ハイランド、岩戸などの住宅団地では、良好に整備した住環境を生かして、住み替えなどによる世代ミックスを促進し空き家を有効活用した地区の活力づくりを進めます。



【景観形成等】

- ・ 平作川沿いでは、周辺市街地の状況に応じて、水辺に親しむ空間として良好な景観形成に向けた環境整備を進めます。
（歩行空間の整備、歴史的資源を活かした景観の形成など）



◆久里浜地区の魅力創造



9：北下浦地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆北下浦地区の位置



【地区の特徴】

- ・ 三浦市に続く海岸線が特徴で、かつては遠浅の砂浜であったが、近年は砂の流出の影響がみられる。丘陵部は武山の樹林と畑地による田園風景が広がっている。
- ・ 丘陵部でYRPの開発が行われ、情報産業等の集積が進んでいる。

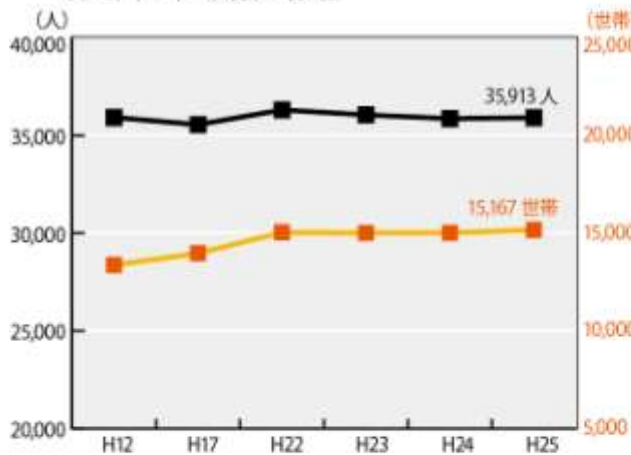
【まちづくりの魅力資源】

○歴史：古墳、白髭神社など

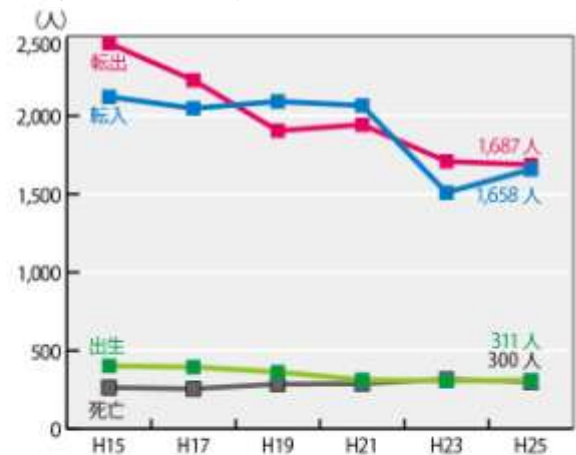
○自然：武山一帯の樹林地、畑、果樹園、海岸線と眺望など

○まち：YRP、海岸のボードウォーク、水仙の街など

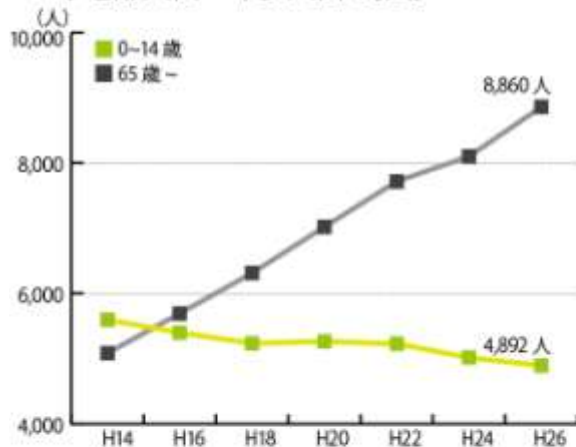
◆人口・世帯数の推移



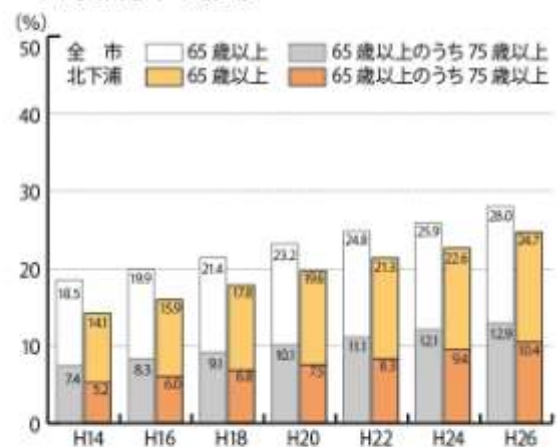
◆人口移動の推移



◆高齢人口・年少人口の推移



◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





（２）まちづくりの目標

- 海岸と眺望、樹林地、畑などの豊かな自然の中で、穏やかでゆとりのある時間を過ごしていくことを実感できるようなまちづくりをめざします。

「自然の広がりの中でゆとりある生活環境を築くまちづくり」

（３）土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 武山周辺の樹林地は、都市のみどりの骨格を形成する緑地ゾーンとします。
- ・ Y R P 野比駅周辺地区は、多様な都市機能の集積を図る地区の拠点市街地とします。
- ・ 横須賀リサーチパーク地区は、情報通信産業を中心とした機能集積を図る産業ゾーンとします。

【住宅地】

- ・ 栗田、野比、長沢などの丘陵上部の住宅地は、低密度の低層住宅地とします。（良好な住環境の保全など）①
- ・ 野比小学校周辺、野比2丁目・3丁目の海岸部、津久井1丁目などの市街地は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とします。（住宅地の利便性向上や防災性向上など）②
- ・ Y R P 野比駅から津久井浜駅にかけての京急久里浜線の海側の地区は、中密度の低中層住宅を中心にした住宅地とします。（共同建て替えの推進、オープンスペースの充実など）③
- ・ 栗田などの住宅団地のセンター地区は、日常生活の利便性に貢献するサービス機能の維持・向上を図ります。

【商業業務地】

- ・ Y R P 野比駅周辺地区は、地区の拠点市街地として、商業、業務、医療、福祉、文化、交流、居住等の地区に必要な都市機能の集積を図る拠点商業業務地とします。（YRP 地区との連携、幹線道路沿道の好立地を活かした商業空間の形成など）④
- ・ 京急長沢駅周辺地区、津久井浜駅周辺地区は、地区の生活拠点として生活利便施設の立地を誘導します。⑤
- ・ 安浦下浦線や大津長沢線の沿道地区は、沿道サービス施設や都市型住宅等の集積する複合市街地とします。（海辺の環境を活かした商業施設など）⑥

【産業地等】

- ・ 横須賀リサーチパーク地区や野比の丘陵地は、自然環境と調和した職住近接型の研究、開発、交流、居住等の機能集積を図ります。⑦

【緑地等】

- ・ 武山周辺の樹林地は、都市のみどりの骨格を形成する地区として、自然環境を保全し、ハイキングなど自然に親しむ交流の場の整備を進めます。⑧

- 津久井の農地と農業集落の区域は、良好な農業環境の保全と育成を図ります。（観光農業等の交流の場づくり、都市型農業の振興など）⑨
- 北下浦海岸は、本市の特徴的な海辺として保全、育成していきます。（砂浜の保全、眺望広場やプロムナードの利便性向上など）⑩

（４）交通網の整備方針

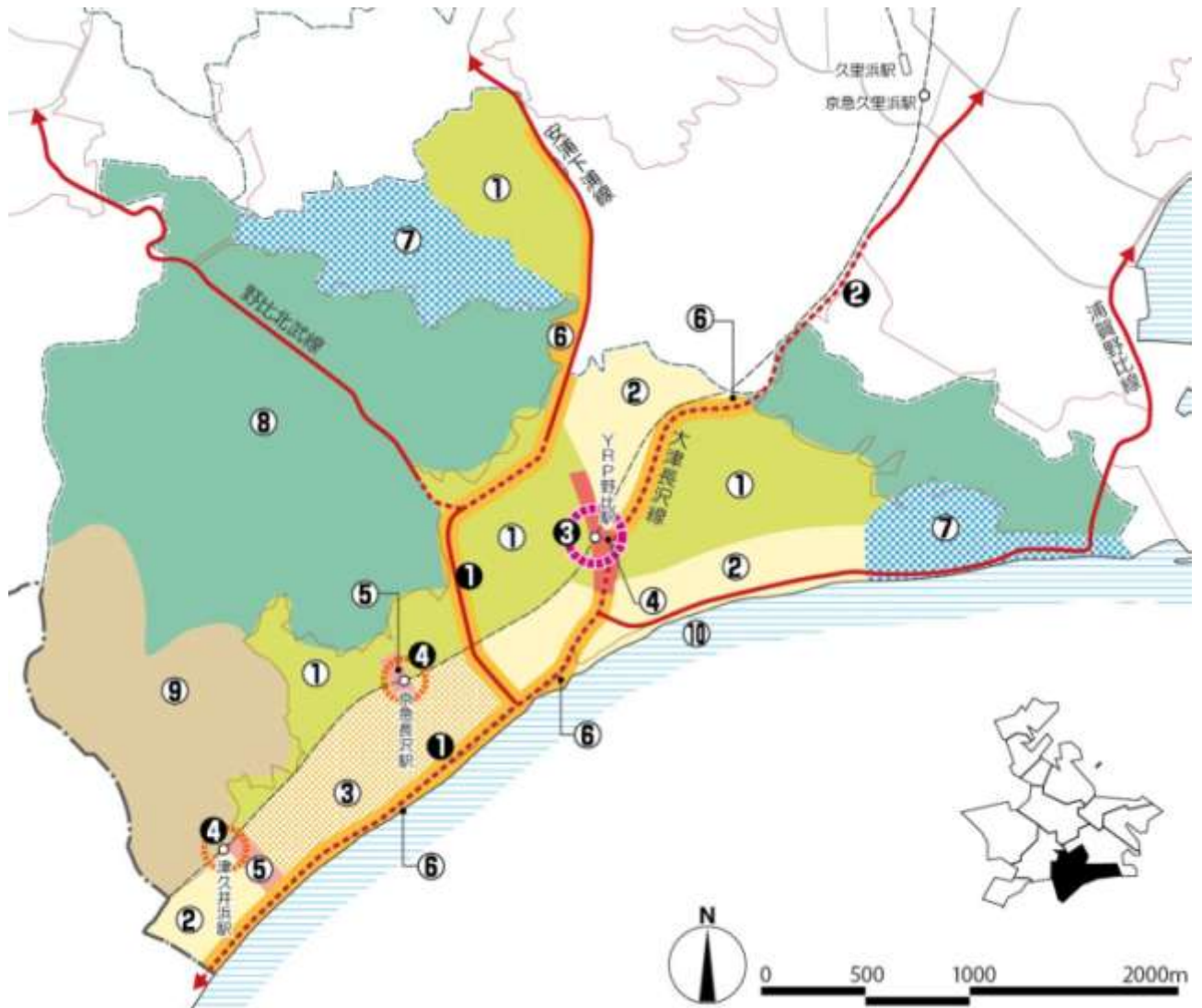
【交通網の骨格形成】

- 大津長沢線、安浦下浦線により、広域とのネットワークを形成します。
- 大津長沢線、安浦下浦線、野比北武線、浦賀野比線により、都市内でのネットワークを形成します。
- Y R P野比駅を拠点として、公共交通のネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- 安浦下浦線の整備を促進し、中心市街地及び横浜方面など広域圏との連絡を強化していきます。❶
- 大津長沢線の整備を促進し、久里浜方面との連絡を強化していきます。また、北下浦地区の市街地の幹線道路として、安全で快適な歩行者空間を整備していきます。❷
- Y R P野比駅前の交通結節点機能を強化し、ユニバーサルデザインに配慮した環境整備を進めます。（歩行者空間の充実、駐車場・駐輪場の確保、駅施設利用の利便性の向上など）❸
- 京急長沢駅、津久井浜駅での駅利用客の利便性の向上を図ります。（駐車場・駐輪場の確保など）❹
- 狭隘道路や行き止まり道路の多い市街地では、生活道路網の整備を進めます。（建て替え時の壁面後退と狭隘道路整備など）
- 京急久里浜線の複線化を促進します。

◆北下浦地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

○リゾート環境・田園環境と住まい

- ・ 温暖な気候と、海・山・田園の豊かな自然環境を活かし、様々なライフスタイルに応じて様々な楽しみを実感できる暮らしの場の魅力づくりを進めます。

【魅力拠点のネットワーク】

- ・ 三浦市までつながる北下浦海岸の風景とアクティブな楽しみの場が、この地区の大きな魅力です。今後も、より一層海を身近に感じることができるよう、環境整備を進めていきます。
- ・ 畑、里山、古寺などをとおり武山～砲台山～三浦富士を巡るハイキングルートは、四季の変化を楽しめます。今後とも、ハイキングルート of 環境整備などを進めていきます。



【賑わい拠点の形成】

- ・ YRPは、情報通信等の産業の拠点ですが、最新技術の展示や自然環境に配慮したビオトープ的な公園など、交流拠点としての機能も持っています。今後も、産業の拠点として維持していくとともに、観光・交流の場としての魅力づくりに取り組みます。



【住環境ストックの活用】

- ・ 栗田などの住宅団地では、良好に整備した住環境を生かして、住み替えなどによる世代ミックスを促進し空き家を有効活用した地区の活力づくりを進めます。



【景観形成等】

- ・ 北下浦海岸は、海を眺望し、海にふれあえる良好な景観を守っていきます。



◆北下浦地区の魅力創造



10：大楠地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆大楠地区の位置



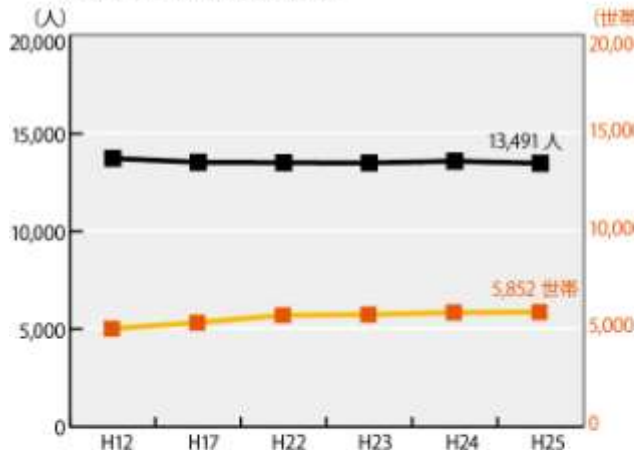
【地区の特徴】

- ・ 大楠山に連なる樹林地と相模湾に面する海岸部からなる、自然の豊かな地区で、温暖な気候と美しい風景を背景に多様な住まい方ができる地区である。本庁方面とはバス・乗用車などの自動車交通でネットワークしている。

【まちづくりの魅力資源】

- 歴史：佐島などの海の祭（海上渡御夏祭り）、浄楽寺の運慶像など
- 自然：大楠山、子安の里、相模湾岸の海岸、佐島公園、立石公園、前田川など
- まち：漁港、マリナー、湘南国際村、佐島の丘など

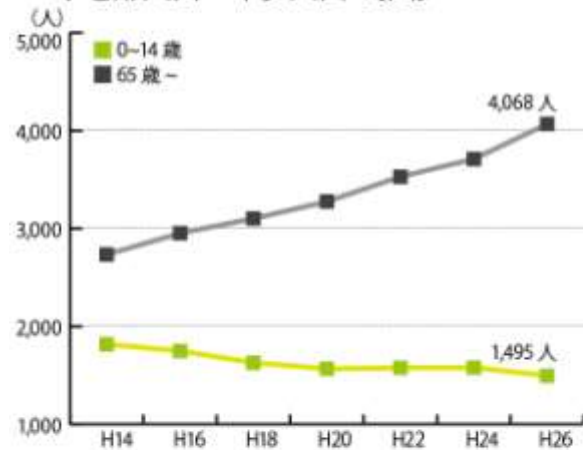
◆人口・世帯数の推移



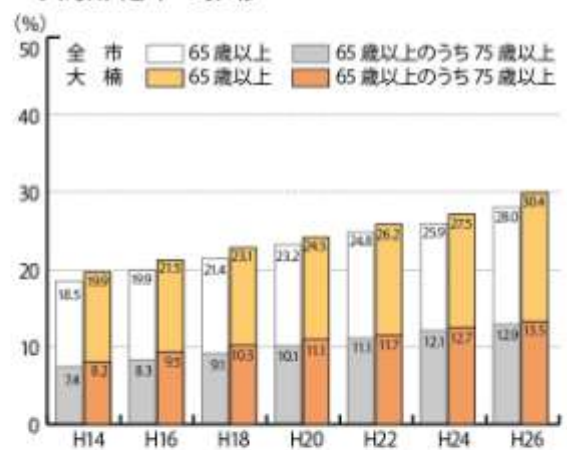
◆人口移動の推移



◆高齢人口・年少人口の推移

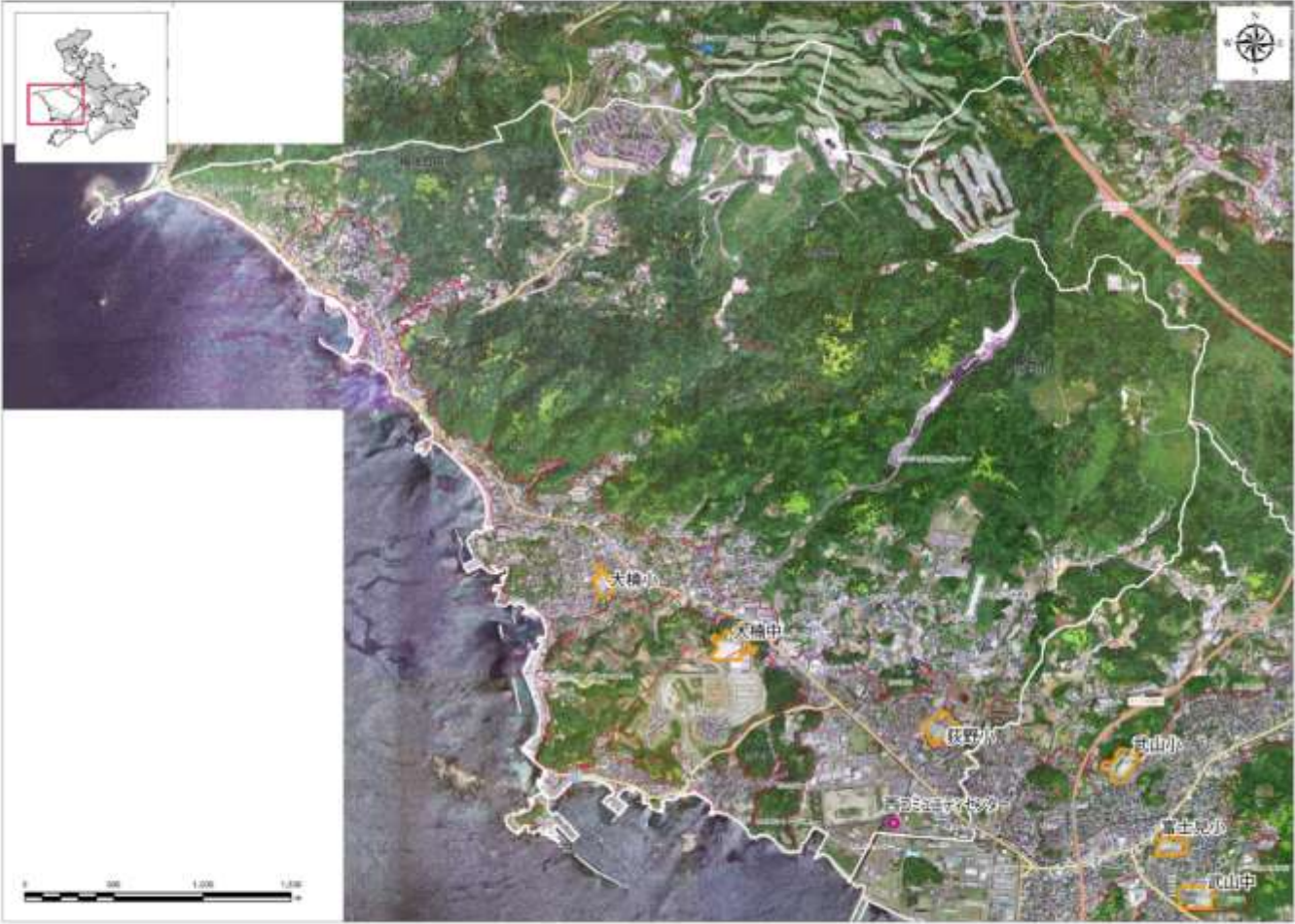


◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





(2) まちづくりの目標

- 大楠山の麓に広がる樹林地と相模湾の海の恵みを生かし、温暖な気候に包まれた穏やかな暮らしの場づくりを目指します。

「豊かな自然と穏やかな暮らしが人々に安らぎを与えるまちづくり」

(3) 土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 大楠山一帯の樹林地は三浦半島丘陵部のみどりの骨格を形成する緑地ゾーンとします。
- ・ 子安や長坂等の集落地は、緑地ゾーンと調和した農業環境ゾーンとします。
- ・ 国道 134 号沿道で日常生活の利便性を高める商業業務機能等の立地を誘導し、坂本芦名線との交差点周辺で、地区の生活拠点としての機能集積を図ります。

【住宅地】

- ・ 秋谷丘陵地、湘南国際村、佐島の丘の住宅地等は、低密度の低層住宅地とします。（良好な住環境や景観の保全）①
- ・ 国道 134 号沿道の山側の地区は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とします。（みどり豊かな住宅地形成など）②
- ・ 秋谷から佐島に至る海岸部の市街地は、海辺の自然と良好な景観、穏やかな気候などリゾート的な環境を活かした中密度の低中層住宅地とします。（漁業関連施設や住宅、保養所や店舗、宿泊施設等の立地、自然環境と調和した景観形成、安全で便利な生活道路網の形成など）③

【商業業務地】

- ・ 西行政センター周辺から林交差点周辺に至る国道 134 号沿道地区は、地区の拠点市街地として、商業、業務、医療、福祉、文化、交流、居住等の多様な都市機能の集積を図る拠点商業業務地とします。（生活利便施設や都市型住宅の立地誘導、高度利用とオープンスペースの充実など）④
- ・ 国道 134 号と坂本芦名線の交差点周辺は、地区の生活拠点として生活利便施設の立地を誘導します。⑤
- ・ 国道 134 号沿道地区は、日常生活の利便に資する商業業務機能や居住機能の共存する複合市街地とします。（生活利便施設や沿道サービス施設、都市型住宅の立地誘導など）⑥

【産業地等】

- ・ 長坂 2 丁目の研究業務施設の集積している地区は、研究業務やそれと連携する製造業等を中心とした工業地とします。（他の地区の研究開発拠点や産業拠点との機能連携など）⑦
- ・ 佐島港周辺は、漁業関連施設やリゾート施設が共存する観光交流の場とします。（漁業・朝市・地産地消の推進など）⑧

【緑地等】

- 大楠山周辺、秋谷の丘陵上部の緑地は、都市のみどりの骨格を形成する緑地ゾーンとします。
（良好な自然環境・景観の保全、自然に親しむ交流の場の整備、自然環境を保全・再生・活用する国営公園の設置推進）⑨
- 佐島公園周辺の緑地ゾーンは、自然環境・景観を保全するとともに、自然環境を学び、観賞する場として維持・管理します。
- 湘南国際村周辺地区は、自然環境の保全と復元、滞在型の学術研究、人材育成、技術交流、文化交流の国際交流拠点としていきます。⑩
- 佐島の丘北側の集落地は、農業環境として維持します。⑪
- 子安、秋谷、長坂などの丘陵にある集落地は、緑地ゾーンと調和した農業環境として維持します。（集落環境の改善、良好な景観の保全など）⑫

（４）交通網整備の方針

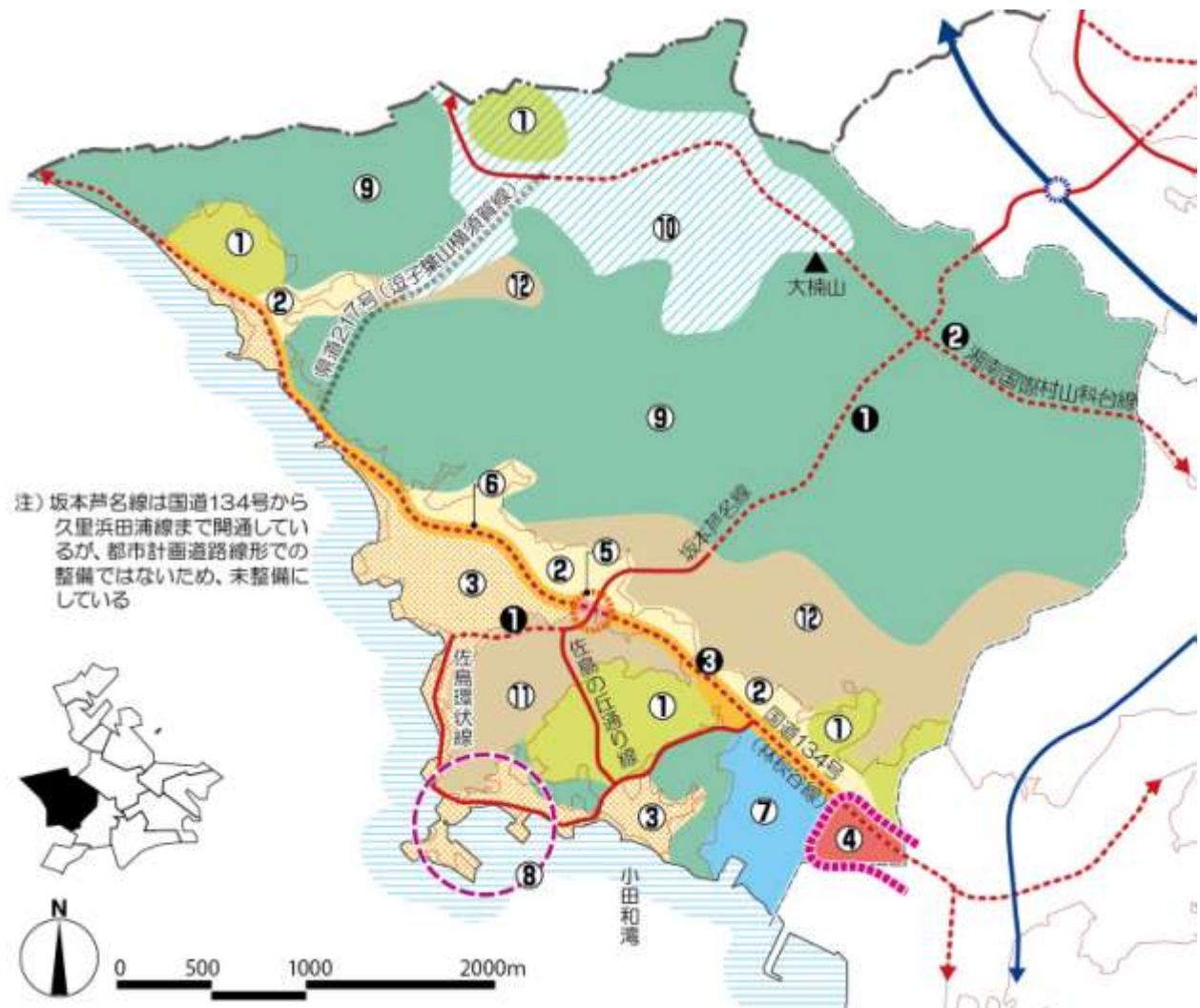
【交通網の骨格形成】

- 湘南国際村山科台線、国道 134 号及び坂本芦名線から新規スマートインターチェンジにより、広域とのネットワークを形成します。
- 国道 134 号、佐島環状線、湘南国際村に至る県道 217 号逗子葉山横須賀線により、都市内でのネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- 坂本芦名線の整備を推進します。（安全な歩行者空間の確保、中心市街地方面との連絡の強化、横浜横須賀道路と接続する新規スマートインターチェンジの開設）①
- 湘南国際村山科台線の整備を促進します。（逗子市方面との連絡の強化、国道 134 号に集中する交通の分散）②
- 国道 134 号の整備を促進します。（計画幅員への拡幅、主要交差点の整備、バス停留所の拡幅整備、自転車走行環境やハイキング環境の整備など）③
- 幹線道路網の整備と合わせたバス交通の拡充を検討していきます。（高速バス、ハイグレードバス停など）
- 秋谷、佐島などの密集した市街地では、防災性の高い、便利な生活道路網を形成していきます。（建て替え時の壁面後退と道路整備、住宅地整備による道路新設と既存道路の適正なネットワークの形成など）

◆大楠地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

○海と山のリゾート環境と住まい

- ・ 相模湾に面する海の魅力と、大楠山の麓に広がる樹林地の魅力を満喫して、落ち着いた時間・穏やかな気候・リゾート感のある風景を楽しむ暮らしの場づくりを進めます。

【魅力拠点のネットワーク】

- ・ 佐島公園一帯を交流拠点として、西海岸の魅力を連続させるように佐島～芦名～秋谷～久留和から逗子・葉山方面へとつながる西海岸でのネットワークづくりを進めます。
- ・ 大楠山を拠点として、樹林地の魅力に親しむ前田川遊歩道や阿部倉方面・衣笠方面とつながるハイキングルート/environment整備を進めます。



【賑わい拠点の形成】

- ・ 滞在、研修、研究、技術交流、文化交流等の機能を持つ湘南国際村と、健康スポーツ拠点としての機能を持つY-HEART地区の連携を強化して、国際的な交流拠点づくりを目指します。
- ・ 佐島公園一帯は、漁港の風景、朝市、海の食、マリナー、自然観察など複合的な海の魅力を体感できる交流拠点としていきます。



【多様な居住の場づくり】

- ・ 温暖でリゾート感のある西海岸の特性を生かして、様々な住まい方ができる居住環境を整えていきます。



【景観形成等】

- ・ 長者ヶ崎から佐島にかけての海岸沿いの市街地は、本市の特徴的な海辺の景観として保全・整備していきます。



◆大楠地区の魅力創造



11：武山地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆武山地区の位置



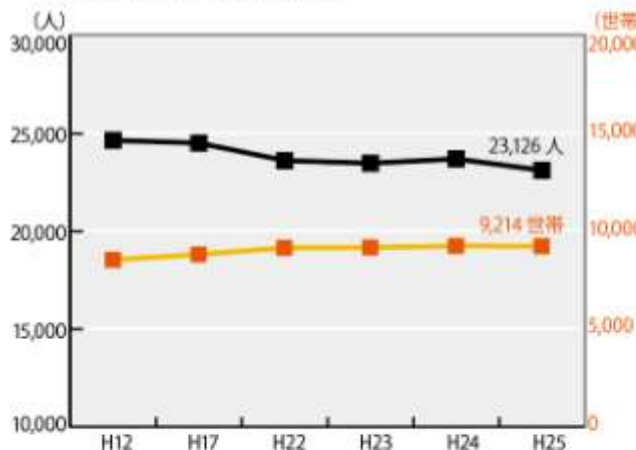
【地区の特徴】

- ・ 衣笠方面と相模湾岸を結ぶ横須賀三崎線を主軸として形成されてきた地区であり、市街地は国道134号との交差点である林周辺から横須賀三崎線沿いに広がっている。
- ・ 海岸部は自衛隊の基地や学校などが立地している。

【まちづくりの魅力資源】

- 歴史：武三島社、武山不動尊、一騎塚など
- 自然：武山、太田和つつじの丘、小田和川、竹川など
- まち：自衛隊基地等、三浦縦貫道路、Y-HEART 地区など

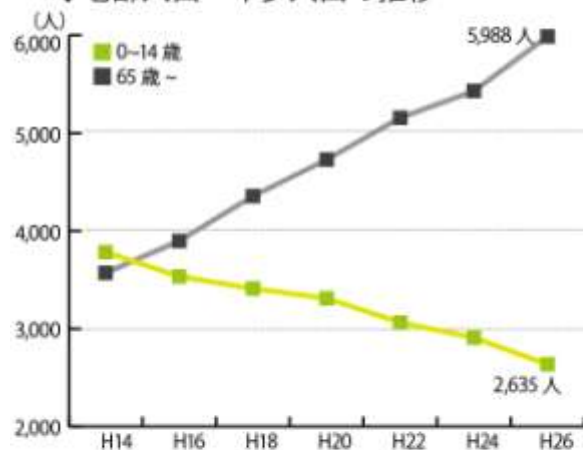
◆人口・世帯数の推移



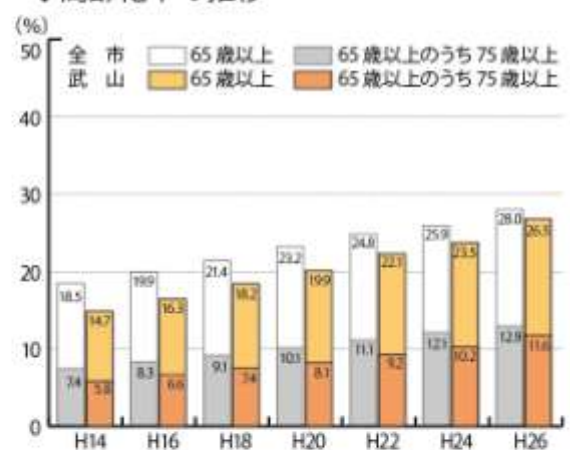
◆人口移動の推移



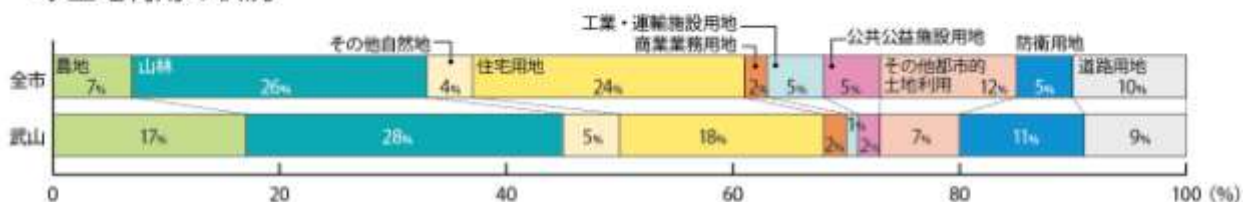
◆高齢人口・年少人口の推移



◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





（２）まちづくりの目標

- 大楠山と武山の自然に囲まれたみどり豊かな環境の中で、自動車専用道路の利用にも便利な立地を生かして快適な居住環境づくりをめざしていきます。

「自然の中の快適な暮らしをはぐくむまちづくり」

（３）土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 大楠山と武山の樹林地は、三浦半島丘陵部の骨格を形成する緑地ゾーンとします。
- ・ 横須賀三崎線沿道、国道 134 号沿道は、日常生活の利便施設の立地を誘導し、林交差点周辺から一騎塚周辺では拠点市街地として多様な都市機能の集積を図ります。

【住宅地】

- ・ 山科台、武、太田和など丘陵の市街地は、みどり豊かな低密度の低層住宅地とします。（幹線道路とネットワークする主要生活道路の整備、周辺の緑地と調和した住宅地景観の形成など）①
- ・ 国道 134 号や横須賀三崎線の沿道地区の市街地は、低密度の低中層住宅を中心とした住宅地とします。（緑豊かな住宅地形成など）②

【商業業務地】

- ・ 林交差点周辺から一騎塚の交差点周辺に至る横須賀三崎線沿道地区は、地区における拠点市街地として、商業、業務、医療、福祉、居住等の多様な都市機能の集積を図る拠点商業業務地とします。（計画的な高度利用、都市機能の集積、便利で魅力ある都市空間の形成など）③
- ・ 横須賀三崎線と野比北武線の交差点周辺地区は、地区の生活拠点として生活利便施設の立地を誘導します。④
- ・ 拠点市街地と連担する国道 134 号や横須賀三崎線の沿道地区は、日常生活の利便に資する商業業務機能や居住機能の共存する複合市街地とします。（生活利便施設や沿道サービス施設、都市型住宅の立地誘導など）⑤

【産業地等】

- ・ Y－H E A R T地区は、広域交通の利便性を活かした工業研究業務機能、健康スポーツ機能や、居住、文化、レクリエーション等の機能の導入を図ります。⑥

【緑地等】

- ・ 大楠山周辺、武山周辺の丘陵上部の緑地は、都市のみどりの骨格を形成する緑地ゾーンとします。（良好な自然環境、景観の保全、自然に親しむ交流の場の整備など）⑦
- ・ 須軽谷、太田和の農地と農業集落の区域は、農地・農業集落地とし、良好な農業環境の保全と育成を図ります。（観光農業等の交流の場づくり、都市型農業の振興など）⑧
- ・ 耕作放棄地は、引き続き農地としての活用を図ります。また、遊休未利用地等は広場等の活用を検討していきます。

（４）交通網整備の方針

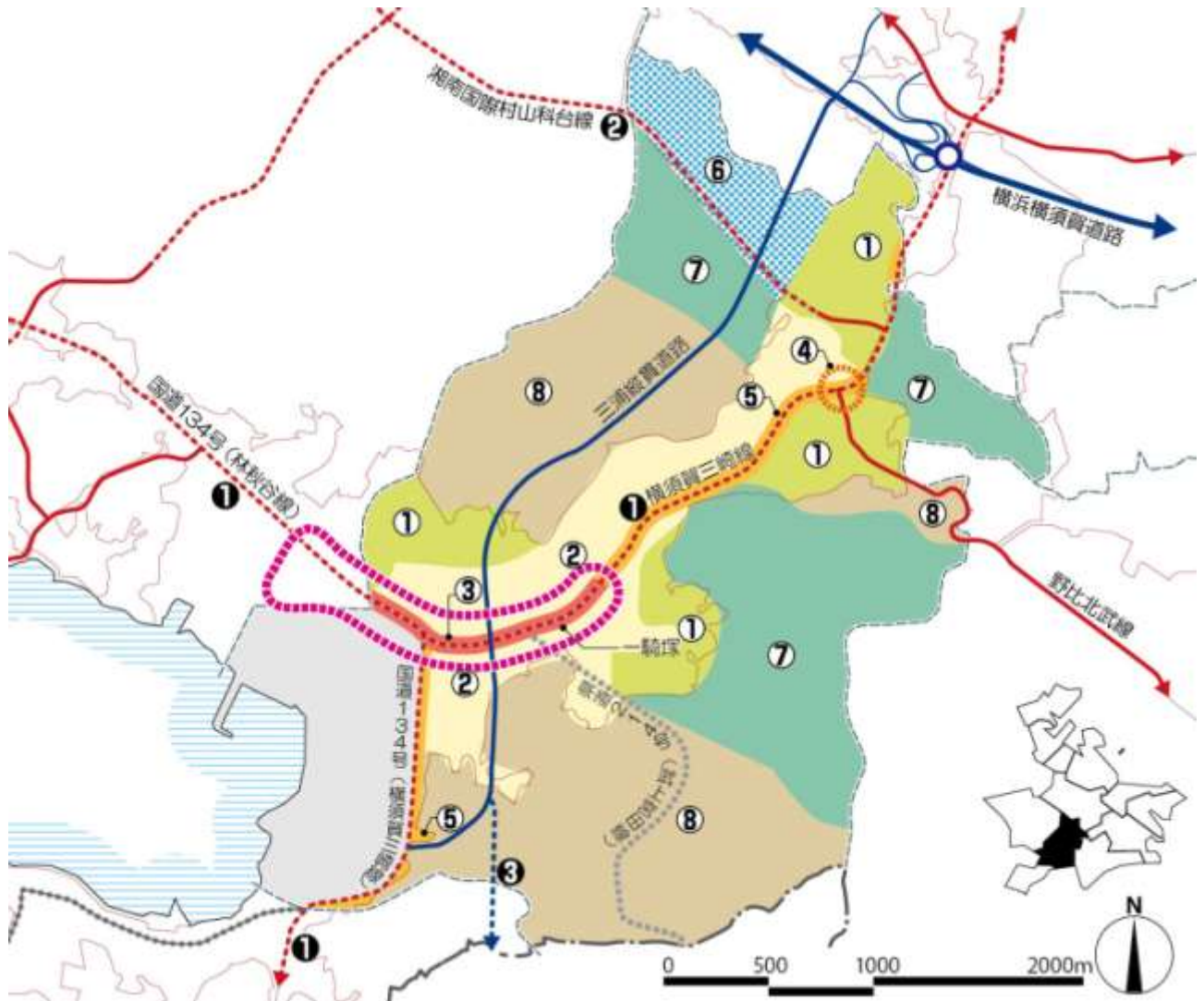
【交通網の骨格形成】

- ・ 三浦縦貫道路、湘南国際村山科台線、国道 134 号により、広域とのネットワークを形成します。
- ・ 国道 134 号、横須賀三崎線、野比北武線により、都市内でのネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- ・ 国道 134 号や横須賀三崎線の整備を促進します。（計画幅員への拡幅、主要交差点の整備、バス停留所の拡幅整備、自転車走行環境やハイキング環境の整備など）❶
- ・ 湘南国際村山科台線の整備を促進します。（逗子・葉山方面との連絡の強化、国道 134 号に集中する交通の分散）❷
- ・ 三浦縦貫道路の三浦市方面への延伸整備や幹線道路網の整備と合わせたバス交通の拡充を検討していきます。（高速バス、ハイグレードバス停など）❸
- ・ 建て替え等に合わせて生活道路網の整備・改善を図ります。（壁面後退と地区内の道路ネットワークの形成）

◆武山地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

〇みどりに囲まれた快適な暮らしの場

- ・ 少し出歩けば、大楠山や武山の豊かな自然と四季の変化に出会える環境の中で、自然とのふれあいの楽しさや大切さを実感できる暮らしの場づくりを進めます。

【魅力資源のネットワーク】

- ・ Y-HEART地区から大楠山に至るハイキングルートや、武山を巡るハイキングルートの環境整備を進めます。
- ・ Y-HEART地区から太田和つつじの丘を巡る散策路や、水辺空間を活用した散策路の環境整備を進めます。



【賑わい拠点の形成】

- ・ Y-HEART地区は、湘南国際村との機能連携により、健康スポーツに関する訓練、学習、研修、技術交流、文化交流など国際性のある賑わい拠点づくりをめざします。
- ・ 林交差点周辺から一騎塚にかけては、地区の賑わいの拠点として、商業、業務、医療、福祉、交流、サービス等の機能集積を図ります。特に、平坦地の少ない地区における拠点として、歩いて楽しい商業空間づくりを誘導します。

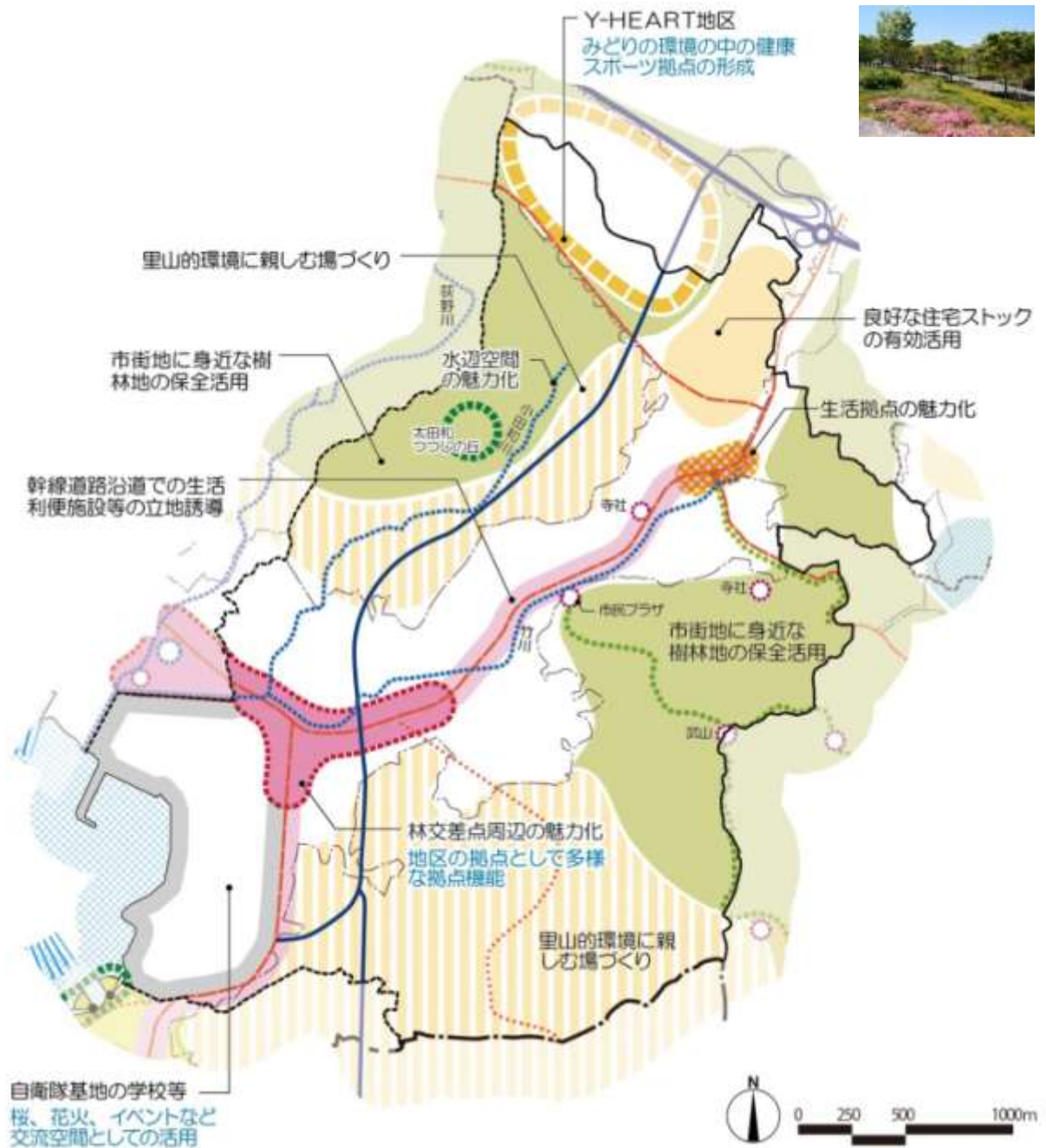


【景観形成等】

- ・ 林交差点周辺から一騎塚にかけては、地区の特性に合わせた拠点市街地に相応しい賑わいと魅力のある都市景観の形成を図ります。



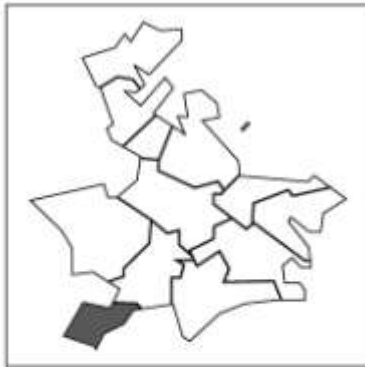
◆武山地区の魅力創造



12：長井地区のまちづくり方針

(1) 概況

◆長井地区の位置



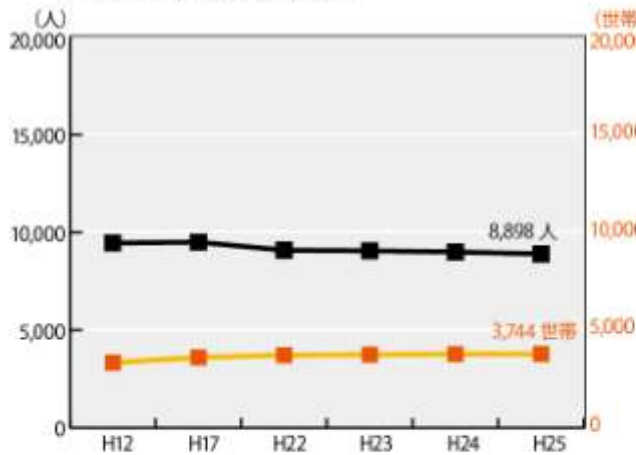
【地区の特徴】

- 相模湾に面した漁村型の集落と、広がりのある畑地に点在した農村型の集落を基にして形成された地区である。海岸部は自然の良港に恵まれ、古くから海運の拠点として栄えた。荒崎の海岸は荒々しいリアス海岸の景勝地である。

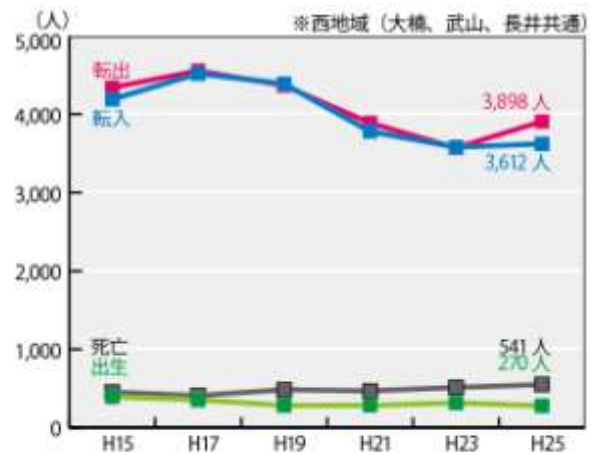
【まちづくりの魅力資源】

- 歴史：熊野神社、住吉神社、荒井の道切りなど
- 自然：相模湾、荒崎公園、野菜畑など
- まち：漁港、朝市、ソレイユの丘、民泊、すかなごっそなど

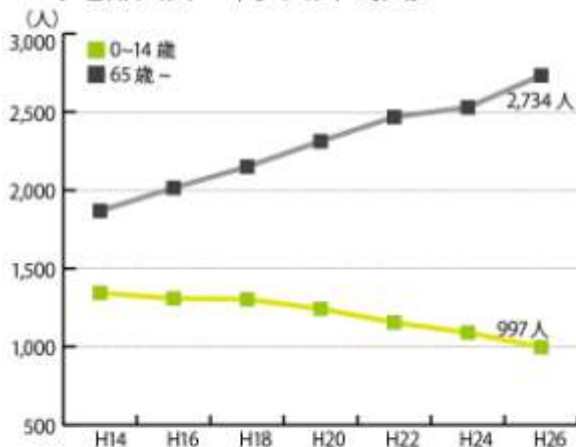
◆人口・世帯数の推移



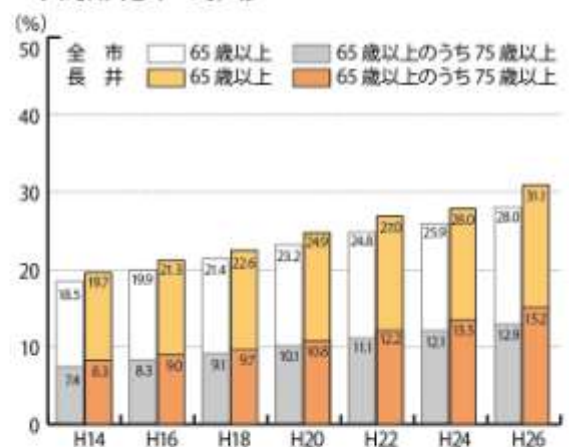
◆人口移動の推移



◆高齢人口・年少人口の推移



◆高齢化率の推移



◆土地利用の状況





(2) まちづくりの目標

- 長井漁港のほか多数の漁港が集積する漁業のまちであり、三浦市と連担して広がる野菜畑を有する農業のまちに、温暖な気候と美しい海岸などのリゾート感覚の住まい方や民泊など、新しい動きでの活力づくりにも取り組みます。

「漁業・農業と暮らしの活力を高め、安全に暮らせるまちづくり」

(3) 土地利用の方針

【土地利用の骨格形成】

- ・ 相模湾岸沿いは、漁港施設に加えて住宅を中心とする住宅ゾーンとします。
- ・ 住宅ゾーンに接する高台は、畑や農家住宅を中心とする農業ゾーンとします。
- ・ 住宅ゾーンの中を走るバス通りの沿道は、日常生活の利便性を高める各種店舗等の集積するゾーンとします。

【住宅地】

- ・ 小田和湾沿いから長井5丁目にかけての市街地は、海辺の自然と良好な景観、穏やかな気候などリゾート的な環境を活かした中密度の低中層住宅地とします。（都市型住宅、保養所、店舗、宿泊施設等の立地、海辺の環境と調和した景観形成など）①
- ・ 荒崎周辺の市街地や農地に近接する市街地は、低密度の低層住宅を中心とした住宅地とします。（みどり豊かな住宅地形成など）②
- ・ 仮屋ヶ崎周辺地区は、地区の生活拠点として生活利便施設の立地を誘導します。③

【商業業務地】

- ・ 国道134号の沿道地区は、日常生活の利便に資する商業業務機能や居住機能の共存する複合市街地とします。（生活利便施設や沿道サービス施設、都市型住宅の立地誘導、歩行者空間の拡充など）④

【産業地等】

- ・ 長井漁港周辺は、漁業関連施設を中心とした土地利用に加えて、観光交流機能の集積を図ります。（朝市、ソレイユの丘（長井海の手公園）やすかなごっそと連携した地産地消の推進など）⑤

【緑地等】

- ・ ソレイユの丘（長井海の手公園）は、丘陵や海辺の環境と景観を活かした自然との交流や健康活動の拠点として、また農業・漁業と連携し集客性を高める利用を促進します。（荒崎など観光資源との連携による魅力向上など）⑥
- ・ 長井1丁目、2丁目の農業と農業集落の区域は今後とも農地・農業集落地として、良好な農業環境の保全と育成を図ります。（観光農業等の交流の場づくり、都市型農業の振興、ソレイユの丘（長井海の手公園）、すかなごっそと連携した地産地消の推進など）⑦

- 荒崎海岸を中心とする自然海岸、その周辺の樹林地は、本市の特徴的な海辺の景観として保全、整備、適切な管理をしていきます。（自然海岸の環境、景観の保全、観光・レクリエーション施設の管理など）⑧
- 耕作放棄地は、引き続き農地としての活用を図ります。また、遊休未利用地等は広場等の活用を検討していきます。

（４）交通網整備の方針

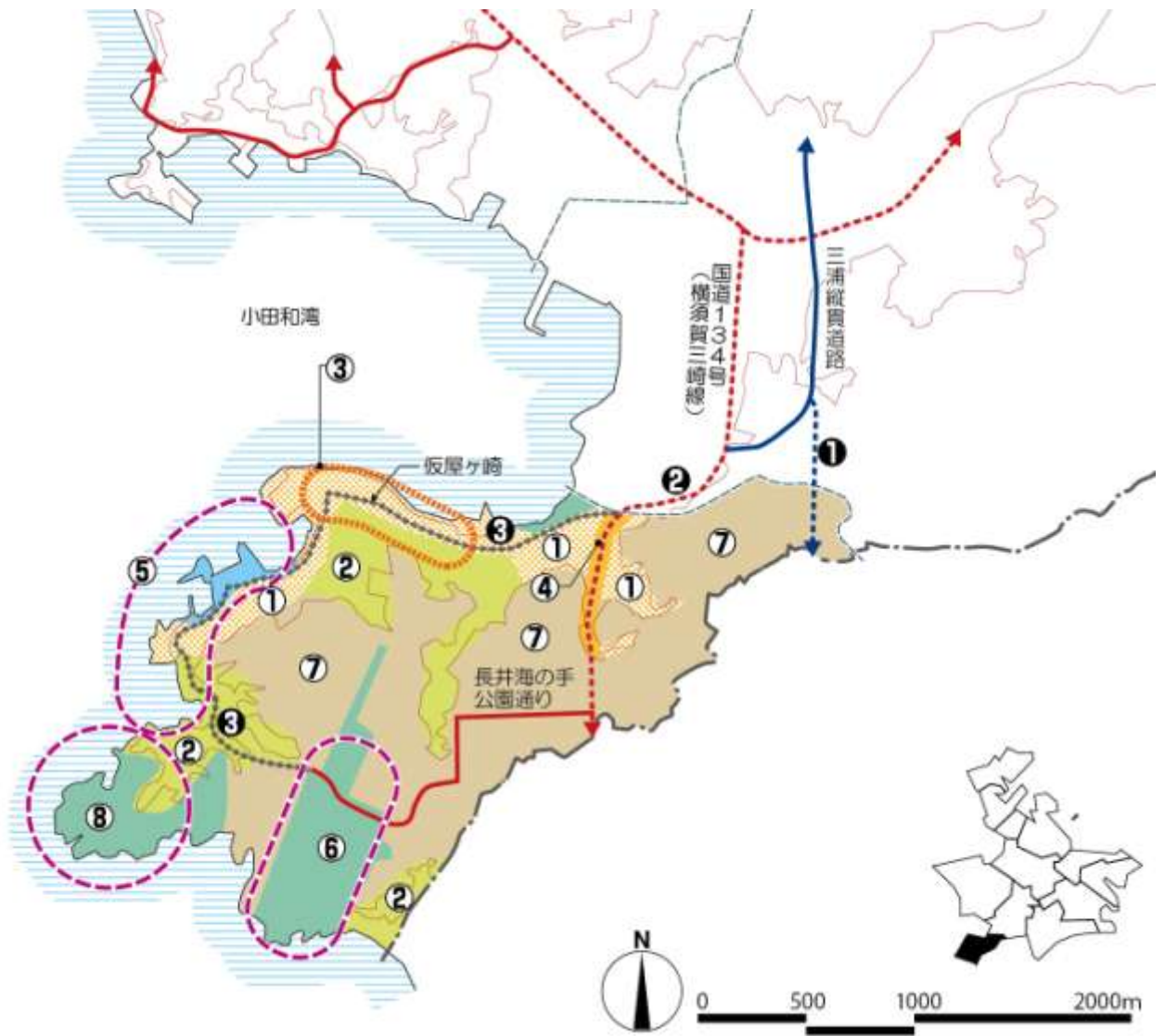
【交通網の骨格形成】

- 国道 134 号により広域とのネットワークを形成します。
- 長井海の手公園通りと、これにつながる地区内のバス通りにより、都市内でのネットワークを形成します。

【交通網整備方針】

- 三浦縦貫道路の三浦市方面への延伸整備を促進します。❶
- 国道 134 号の整備を促進します。（計画幅員への拡幅、主要交差点の整備、バス停留所の拡幅整備など）❷
- 主要なバス停留所周辺でのバス利用客の利便性の向上を図ります。（駐輪場の確保、ハイグレードバス停など）
- 地区内の主要道路の整備改善と合わせたバス交通の拡充を検討していきます。（地区内の道路ネットワークの形成、循環バスなど）❸
- 地区内の生活道路網の整備改善を検討し、津波に備えて丘陵地側への避難ルートの確保を図ります。（壁面後退と地区内の道路ネットワークの形成）

◆長井地区の土地利用・交通網整備の方針



（５）都市魅力の創造方針

○海と大地の豊かさを実感できるまち

- ・ 荒崎の景観、長井漁港などでの海の幸、ソレイユの丘や周辺に広がる野菜畑など、日常生活の中で海と大地の豊かさを実感できる暮らしの場づくりを進めます。

【魅力拠点のネットワーク】

- ・ 荒崎公園一帯を交流拠点として、漁港の連なる地区の魅力を体験できるように西海岸でのネットワークづくりを進めます。

【賑わい拠点の形成】

- ・ 広域からの集客性の高い交流拠点としてソレイユの丘、荒崎公園の魅力化を図ります。（魚介類や農産物の地産地消の充実など）
- ・ 長井漁港一帯は、漁港の風景、朝市、海の食、釣り船など複合的な海の魅力を体感できる交流拠点としていきます。

【多様な居住と交流の場づくり】

- ・ 温暖でリゾート感のある西海岸の特性に加えて漁港からの新鮮な魚介類や畑からの野菜や果物が身近にある食材に恵まれた環境を生かして、様々な住まい方ができる居住環境を整えていきます。
- ・ 学生など多くの人が滞在して横須賀の海の魅力を体感できるように、民泊の環境づくりを進めていきます。

【景観形成等】

- ・ 富浦公園～荒崎公園～長浜海岸にかけての海岸部は、本市の特徴的な海辺の景観として保全・整備していきます。



◆長井地区の魅力創造

